

男女が共に活躍でき、
暮らしやすい社会について、
一緒に考えよう
(対面回)

開催日：2025 年 8 月 23 日（土）

目次

内容

2025 年 8 月 23 日回

実施概要 3

1 班（大学生～学生でない 20 代 5 名） 4

2 班（高校生年代～大学生 5 名） 11

3 班（大学院生～学生でない 20 代 4 名） 21

4 班（高校生年代～大学生 4 名） 28

5 班（高校生年代～大学生 4 名） 37

6 班（大学生～学生でない 20 代 3 名） 46

2025 年 8 月 23 日回

実施概要

- ・ テーマ
 - 男女が共に活躍でき、暮らしやすい社会について、一緒に考えよう
- ・ 開催日
 - 2025 年 8 月 23 日（土）
- ・ 参加者
 - 高校生年代・高専生：7 名
 - 大学生：8 名
 - 大学院生：3 名
 - 学生でない 20 代：7 名
- ・ 形式
 - 対面

1 班（大学生～学生でない 20 代 5 名）

- ライフステージに応じてすべての人が希望する働き方を選択できる社会にするためには、どのようなことが重要だと思いますか？

＜なぜこの「男女共同参画」というテーマに興味を持って参加してくださったのか？＞

- ・ 意思決定するような大人たち、上の人たちの考え方が一方的で、固まっているのではないかと感じることもある。自分は若者代表を名乗れるほど周りの意見を収集しきれているわけではないので、勉強させていただこうと感じ参加した。
- ・ 今就活中で、働くということについて考えることが多く、ライフステージ・今後の未来について思考を巡らせることがあったため。
- ・ 去年女性の人権などの講義を受けていた。ワークライフバランスが大変という話を周りからよく聞いていて、解決になるようなものを話せれば良いと思った。
- ・ これから自分のライフステージが変化していく段階にきていて、周りの先輩が育休や時短勤務を取っていたりするが、本当にこれで十分なのかという思いもある。
- ・ 他のいけんぷらすにも応募し落選続きだったが、今回当選できた。男女の格差に理解はあるつもりだが、社会において働く上での差や、逆に男性への女性からの意見というところで、基本的にあまり言われてこなかったんですけど、「男なのに」みたいなことを言われて傷ついた人たちの話を聞いたり、会社の研修の動画で見て、「あ、そういうのもあるんだな」という思いを持った。知らない男女の違いがあるんだなと思って参加した。

＜素案について良いと思ったところ・追加すれば良いと思うこと＞

- ・ 3 ページ目の施策の基本的方針の中にある、育児・介護休業法の確実な履行や環境整備であったり、会社に対する支援とか。どうしても育休した分の人がいなくてというのは、たぶんよくある話だと思うので、そこをちゃんと補填していくという方針なのは良いと感じた。
- ・ いくら補填しても、仕事の総量自体は変わらないので、休んだ人の分は誰かがやってくれている。社会全体として仕事の総量を減らす、働き手を増やすという方向性が良いかと思う。
- ・ 2 番目の子育ての実現の男女双方の箇所について、本人夫婦二人はもっと二人で頑張りたいと思ってもその両親がどう考えているかは分からない。家族や全体的な意識改革を行う視点、男女双方というと最初からの的を絞りすぎている感じは受ける。年齢層の幅も考慮に入れられる。
- ・ 20 代の女性をターゲットとしているが、介護も大きな問題になるんじゃないかと思っている。特にその 50・60 代について、親の世代の介護があるのも含めてきちんと支えていくという施策がもう少し充実した方がいいのではないかなと思う。
- ・ 育児は年齢が若めで、介護だと親世代だと感じる。片方だけでなく両輪で考える方が良いと思う。2 つのやり方があるよねという形で認識をして、しっかりと同時並行で進めていく方が良いと感じる。その方が幅広い世代に考える機会がある。若い人だから上の人だからという話ではなくて、若い人でも

介護は関わるので、年代で分けないほうが幅広い世代が当事者意識を持つことができる。

- ・ 男女問わず、企業、特に民間企業においては、属人化をなくしていく非属人化が重要。例えば、A さんがいないとこの業務が進まないなどを解消することによって、その業務に関わる方々が誰でもその業務を進行できるという状態を作り出す。あと、省人化。省けるところは省いていく。一番簡単なのは有休取得の基準を設定するなどの法律を制定し、上で(経営層で)設定するとスムーズであると感じる。法学部・ゼミで学んでいて、経営者の負荷も認識しているので、その部分とのバランスもうまく取れると良い。

＜素案にこういうキーワードを足すと良いなどはあるか？＞

- ・ 施策が休業系のものがメインになっている。それ以外の包括的な策が必要。

＜例えばどんな策が考えられる？＞

- ・ 休業せずに育児・介護の支援を受けられるもの。働きながら休業せずに済む方法があるのではないかと思う。
- ・ 最近ベビーシッターを利用する人が増えている。実際にこども家庭庁でもやられているかなとは思いますが、働きながらも子育てを続けたいということも含めて考えられれば良い。女性と男性のワードを個別に使う時は「女性」「男性」と分けて使っているのに対し、「男女」という熟語を残しているのは全体的にバランスを取られたのだろうと推測している。
- ・ 働き方を選択できるようにするには、働いてからではなくて、もっと若い高校生、大学生のうちから生活力・家庭力を付けるような施策が良い。例えば東京都の「育業」というプロジェクトでは、男性育児の推進企業を広報したり、その企業で働く社員に一日密着したりしている。その社員の状況が自分に合致するとは限らないので、もっと実践的に自分の状況に落とし込んで考えられるようにできれば良い。
- ・ 3 ページの「働き方改革を更に推進する」という箇所、育児をする層と介護をする層を抜くと、あと少ししかない。そこに業務が集中してしまい、その人たちが割を食ってしまう。社会的には「こどもを産みなさい」という風潮があるが、そうじゃない人たちも働くことで社会に貢献しているという視点は忘れず、そういう人たちへの内容を素案にも含め、育児・介護をしている人達だけにじゃなくてすべての人への配慮の視点が大事。

＜それらの策を実現するための一番の課題は？＞

- ・ 大きなボトルネックとしては人手不足、人口減少。
- ・ どれに関しても予算不足。
- ・ 将来への見通し、どうい生活になっていくのだろうというのが見えてこない。そこをクリアにするのも重要。
- ・ 人手不足は働いているとかなり深刻に実感する。余計な、そこまで要るのかというような業務があり、AI の活用の考えが広がっているが、本当に必要な業務なのかということを精査することが重要。

＜精査するために必要なことは？＞

- ・ 役所はイメージ通り謎の仕事がある。地方は柔軟な方だが、新卒の時に上司に「なんでこの業務をするんですか？」と聞いても半分ほどが「分からない、いつもこうやっているからこうするしかない」という返答が来る。どうやって抜け出すか正直分からない。
- ・ なんでやるのか分からなくなった瞬間に考えた方が良いことをリスト化する。そうすればそこからまたスタートできるかなと感じる。
- ・ その後の考える時間がない。とりあえずリストに挙げても、考えない。考えずに今まで通りの業務をした方が早いし楽だからいつまでも変わらない。
- ・ 役所業務は他の自治体でも似通っているのならば、その各自治体が個別でやる必要はないのでは。
- ・ まさに今議論されている。ゴミ処理とかであれば、複数の自治体で一緒にしたりしている。

＜さまざまな視点で働き方を捉えることができるが、希望している働き方を実現するためにはどういう視点が重要？なぜ困難になるのか？＞

- ・ 一度休業してしまうとキャリアが止まってしまう。ブランクが空けば空くほどその後のキャリア形成がしにくい。

＜休業じゃない方法で考えるのであれば、会社と薄く関係を構築できるようなものが良いのか？＞

- ・ 子育てをメインにしたいという人もいれば働きたいという人もいる。育児を代わってもらったり、ベビーシッターを呼べるような施策は介護保険並みに手厚くできれば良いのではないか。
- ・ 自分が働かないということは誰かが代わりにやっているとこと。結局人手不足なので実現できないというのが原因となると、人に頼らず、人以外の方法があれば良い。
- ・ 細かい施策とかではなく、薄く会社と関わられるような制度があれば。やりたいときにスポットワークのような形で会社に関わられるような働き方があれば良い。
- ・ 自分の会社もそういう働き方を取り入れている。男性でも育休、出産立会い休暇などもとりやすい。フォームで回答すれば希望が出せるようになっており、上長ではなく直接その管理部門に届くので、非常にやりやすい。そういうフレキシブルな働き方を就業規則で設定するのは大事。

＜そういう働き方を標準化・素案の中に入れるにはどうすることが必要？＞

- ・ 就業規則の作り方が厚生労働省のホームページに掲載されている。そういう形で、育休制度や休業の指針、具体例や課題を具体的に提示できれば良い。

＜先ほど「自分の見通しが立てられない」とおっしゃっていたが、そういう部分を補完するには？＞

- ・ 具体例をピックアップしてどんどん共有する。それでイメージしやすい部分はあると思うので、コツコツ積み上げていくしかない。「こういう取り組みをしています」みたいなものを企業が出せば、そういうもので話合いの場ができるのではないかと感じる。
- ・ 大企業や公務員の方は周知されているのですぐ対応しやすい。一方で、中小企業ではノウハウがな

い・経験がない等の理由で育休制度・介護休暇を導入しづらい。そういう部分を指導できるような部門を作れば良い。

- ・ 自治体では国・県から条例制定等の知らせが内容も含めて直接届く。普通の企業ではニュースでちらっと知る程度。遠い存在である国の存在を、身近に感じられると良い。省庁のホームページは情報が多すぎる。突っ込まれないような内容にしようとするはずと冗長になってしまう。そうしないと作らせてくれない。
- ・ 白書等は開くまでのハードルが高い。いろいろな申請について、どこから手を付ければ良いか分からない、役所に行く時間がないとかでハードルが高い。AI コンシェルジュのような、信頼性が担保されていて手軽に聞ける存在があると良い。
- ・ 0 から 1 が分からない人が多い。1 から 10 にするのは専門家に聞けばよい。0 から 1 は踏み出しづらいと思うので、そこを支援するツール等があると働いている側も事業者側もどちらも嬉しいのではないかな。

<0 から 1 の部分を分かりやすく伝えるためにどうすれば良い？>

- ・ コンサルタントのような形で、外部の人が事業者にアドバイスできるような形があると良い。情報を受け取ってもらうには相談に乗る必要がある。求められるのを待つのではなくて自分から行く。競合という関係があるので、横並びの会社同士の相談・情報の共有はしにくいと感じている。他社との比較ができる公共の仕組みがあれば良い。
- ・ 自治体間であれば他市との連携は当たり前。良い事例の紹介をすれば、会社を探している人からすればそこに入りたいと思うので、それ以外の会社は自分たちもしなければいけないという気持ちになる。
- ・ ホームページでいろんな分野のモデルケースが紹介はされているが、そこまでたどり着かない。
- ・ 最近よく見るのは「くるみん」。逆に見すぎている印象がある。
- ・ 新卒採用ページ等でもよく見るが、結局何なのかが分からない。休暇など…の表記などでぼかされているところもある。家電の省エネ性能のように数値化するのは難しいと思うが、一定の数値の指標は欲しい。

<数値とはどういうものを設定する？>

- ・ 省エネ性能のような感じで、5.0 が Max としたら 4.7 とかグルメサイトの評価のように休みやすさとか休暇の種類に点数を設定する。一定のルールの中で、基準ごとの数値を設定し五角形のチャートで表すとか。
- ・ 数値化すれば競争意識も芽生えるかもしれない。
- ・ 義務付けても大手企業しか実践しない可能性がある。ほとんどの人が中小企業に就職するのだから、結局のところ大部分の企業・人に届かないリスクがある。
- ・ 基準をクリアすれば補助金を与えるなどの条件を与えれば賛同企業が増えるかとも思うが、業務量がかえって増えてしまう可能性がある。

- ・ 五角形がきれいな形をしていると良いとか星 5 が良いと捉えられているが、育休の取得率とリモートワークの割合など、良いところ・悪いところは各企業ある。その良いところに合わせて就活生等は自分の希望と照らし合わせて考えられれば、入社後のミスマッチを防げる。そういうコンセプトでの出し方もありかと感じる。

＜中小企業への対応でもっとこうすれば良いのと思うことはあるか？＞

- ・ 何かしらのインセンティブがないと動かないと思う。経営者としては新しく導入するもののリスクは怖い。そこへの保障がない。取り組みやすそうな仕組み・整備された環境があると良い。
- ・ 目先の経営がやはり大事。今年をどう乗り切ろうかと考えている経営者に育休の話をしてもし刺さらない。長期的な目線を常に持っているわけではない。
- ・ 上場していない企業は説明する必要がない。対外的にそういう取り組みをしていることをアピールするメリットがない。
- ・ これまでそういうことをやらなくてもやってこられた自信、生存性バイアス的なこともあると思う。

＜そういうところに対する解決策はあるか？＞

- ・ そこで働いている人たちの意識が変わらないといけない。従業員に言われると動くかもしれない。
- ・ 中小企業に多くありがちなのが、同族経営など社長が代々つながっている形の経営。そこで考えが固まってしまいがち。従業員からの声をフォームや紙ベースでも匿名で言えるような仕組みは良いと思う。
- ・ 上場・非上場関わらず、ハードルは高いが、取締役を男女半々にする。
- ・ 必ずしもキャリアは連続しなくてもよいという考えはあっても良いのではないか。今はここで働くが、何かあったら違うところで働くとかでも良い。

＜やりたいことを実現するために整備してほしいポイントとは？＞

- ・ 正規雇用と非正規雇用でやっていることに大きな差があるかというところでもないところがやっぱり多い。例えば、飲食店ではバイトと社員でやっていることはさほど変わらない。雇用する側からしたら人件費などの面で変わってくるかもしれないが、周りから見たらほぼ変わらない。正規雇用であることにももちろんメリットはあると思うが、そうであるならばそれなりの仕事であるべき。
- ・ 制度的に非正規雇用を望んでいる人もいる。
- ・ スポットワークを活用すると良いのではないかな。非正規も正規も変わらないような事務作業のようなものに一日何時間というよりは、週何時間働きたいな新しい働き方を提案すると良いのではないかと感じる。固定の環境にしつつ、週で薄く関わることが一番職種に関わらずにできると感じる。
- ・ 国ができることというと、環境整備と良い事例を広げていく伝播力が挙げられる。企業などから、その中で個人がどうやって生活を良くしていくかのレベルまで降りていければ良い。休業したら昇給できなくなる会社の仕組みや結婚してもしそういうことになったらやっぱり不安に感じると思う。単年度の短期的な評価だけでなく、中長期的な評価基準を設けてほしいし、そういう企業があれば取り上げて

ほしいし、その情報を AI コンシェルジュに入れてほしい。一方で、中小にしる大企業にしる、入る人は義務教育に通っている。働き方がどうなっても選べるように生活力を上げていく。最近だと給与明細の見方を教えている家族もあるみたいで、それが主流になって働いてからじゃなくて、どの企業に行っても、自分のキャリアを守っていける。自分が企業に意見を言うためにはそういう措置を教育の中で入れてほしい。

<誰から誰の教育なのか？>

- ・ 義務教育の中で。家庭科は料理とかアイロンの掛け方とか洗濯板を使ってみるとかであったが、それだけでなく家庭科の中に金融の教育が入るようなものが良い。
- ・ 大卒だったらインターンなどで会社を知ることができるが、高卒とかだとあまりない印象。高卒採用でも導入すべき。
- ・ 高卒市場は狭く、一社に決まるとそれ以外の内定が取れない。工業高校とかでも、高校との信頼関係で企業から高校ごとの枠を設定していたりするので、高校からの就職の幅を狭めている。

<育休した分の補填という話があったが、この補填とは何を指す？>

- ・ 労働力が減っているのを金銭で補う。人手を補うのは難しいと思うので、まずお金で補って、会社が必要に応じてそのお金の中から新しく雇用するという形が良いのではないかな。

<会社について、もっとあるといいなと思うこと>

- ・ 新しい、柔軟な働き方をどんどん検討していくと話が広がっていくのかなと感じる。
- ・ 個人的にはずっとテレワークが続いてほしいと感じている。今、コロナが明けてテレワーク廃止の流れが来ている。その選択肢を奪うのはどうなのかなと感じる。
- ・ リモートワークや AI というワード自体が今の素案にない。
- ・ ハード面を整えようとしているが、ソフト面があまりない。

<ソフト面とは具体的に何か？>

- ・ ライフコースと素案に書いてあるが、実際にどう支援していくかが分からない。実際に具体的な施策に落とし込んでいくときにギャップがあるのではないかなと感じる。
- ・ 性別の役割分担とかはだいぶゆるやかになってきている。女性は働くとなっていく一方で、男性は働く量をキープしたまま育児もしなさいと言われていた感じがしている。お互いが半分ずつという前提のもとであるべきなのに、上乗せされていてお互いの負担が増えているだけの印象を受ける。意識改革が必要だと感じる。
- ・ 育児介護をしている人の負担を除くというのは、その人たち以外の育児介護をしている人がさらに大変になるということでもある。会社の中でも、育児介護に時間を割く人がいると、それ以外の人にしわ寄せが行く。
- ・ 独身という選択をする人にも、そこにもしわ寄せが行くと公平感は失われる。

- ・ 仕事をしなくて、独身を選んでいるわけではない。
- ・ 施策の基本方針 1 のところで、取引先中小事業者へのしわ寄せと書いているけど、同じ会社の人・同僚へのしわ寄せという表現にした方が良い。そもそもしわがなくなれば良いが、人口減少社会ではほぼ不可能に近い。
- ・ 会社の仕事の総量を減らしていくという話にもつなげていける。

<最後の振り返り>

- ・ 「どんな人でも無理なく働ける社会」というのは今日の議論の全体としてのキーワードに感じる。
- ・ AI など、人以外で解決するというのが人手不足に対する策の鍵となと感じる。
- ・ 大手だけでなく中小企業でも取り組んでいけるような仕組みが必要。国のパワーを使って広げていく。
- ・ 理想とのギャップを把握することも大事。
- ・ デメリットを把握するための事例もあるとおもしろい。それを知らないと導入に踏み切れない企業もあると思う。

<今日の感想>

- ・ どんなことを言おうかなと考えては来たが、全く思いもよらないようなことを言えた。これから働いていく中で実践していきたい。
- ・ あまり働いたことがなく分からない中で発言していた。どんなライフステージがあるのかどんな手段があるのかなど少し未来を見る機会になれてすごく嬉しかった。
- ・ 結構現実的な話が多くでき、良い機会であった。
- ・ 本当にこうしたら良いのではないかというようなアイデアがいっぱい出た。なかなか「男女共同参画」のようなワードになると、話すことが難しい。こういう機会があって良かった。
- ・ なかなか自分の考えだけでは全部出しきれないので、皆さんの考えを聴くことによって、新たな知識や考えを得られたり、それに対してまた自分の考えが持てたりした。非常に勉強になった一日でした。

2 班（高校生年代～大学生 5 名）

- ライフステージに応じてすべての人が希望する働き方を選択できる社会にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。

＜身近な大人の働く姿を見て疑問に感じることや社会の課題だと思うことはありますか？＞

- ・ 私の親は、なんで有給休暇を取らないのか聞いたときに「こどもが病気になった時に休まないといけないから有休を取っていない」と言っていた。自分で調べたら、有休とは別にこどもがケガした時に取れる休みもあったが、これは場所によっては無給になったり申請が大変だったりで取りづらいという意見もあった。だから、こどものために急に休むとなった時ための有休になっている感じがして、自分の趣味とかのために有休を使えないのかなというのをちょっと思ったりした。
- ・ 自分の親戚で医療関係の仕事をしている家庭があって、結構田舎の方に住んでいて、育休を取るとなった時に、すんなり病院（職場）で受け入れてもらったし、復帰する時も「またすぐ戻ってきてね」という感じで声をかけられたと聞いたことあった。
- ・ 一方で、ネットで見たことがあるのが、都会の方ほど人数が多くて競争もあるので、育休を取るって言ったら「じゃあもうあなたはいいです」みたいなひどい話もあるらしい。この働き方も都会と田舎でだいぶ差があるのかなというふうに感じた。
- ・ 今とは違うけど、自分の母の時代は出産で仕事を辞めて育児に専念するような時代で、やっぱり父親は仕事に専念するからあまり子育てしない家だったらいい。お母さんがちょっと仕事に戻りたいとなった時も、あまり働き口が無くて。今は育休がちょっと取りやすくなったと聞くけど、それでもやっぱり育児を女性の方に押しつけているというか、そういう現状があるというのは聞いた。

＜介護も仕事を辞める原因になることもあると思います。育児・介護と仕事を両立する難しさは他にどんなことがありますか？＞

- ・ 育児や介護に関する制度が無い・少ない会社もあると思うが、それは会社も、その会社で働いている人が悪いわけではないと思う。自治体や行政が会社に対して、例えば育休制度をもっとやるような会社に補助金を出すとか、自治体によっては育休が取りやすい会社を認定して公表するという事はやっているらしい。会社がただ善意で休みを取らせるだけだと、会社の負担になるだけ。どちらかという、行政がもっと支える仕組みがないと、ただ会社の負担だけが増えていって、結局会社が限界で、従業員が満足した休みが取れないっていうのはあると思う。休暇の制度は行政とかがもっとちゃんとしてほしい。
- ・ 1 つの職場だけでの問題ではなくて、企業にも取引先ってものがたくさんあるわけだし、いろんな職場がある中で、社会全体で働き方や労働環境のあり方を見だしていったら、その指標に向かっていけるような機運が生まれたいのかなと思う。そうしたら、どこの職場に行っても遜色ないというか、働きやすい環境でいられるし、仕事選びももっと楽になるのかなって思う。
- ・ 人手不足の課題もあるけど、誰かがすぐに休める状態や体制を作るのが大事だと思う。そのためには

より多くの人を集めなきゃいけないし、その分雇う企業にも負担がかかるから行政のサポートも大事。誰かがいないと務まらないというのではなくて誰かが抜けても大丈夫っていう状態をつくっておく必要があるのかなと思う。

＜これから働くうえで、キャリアとプライベートのバランスをどうとっていきたいですか？理想の働き方はありますか？＞

- ・ 働くことがちょっと嫌に感じている。就活している途中だが、良い企業とマッチングできる機会は限られている。売り手市場とは言っても、優秀な人だけが良い職場に入って、そうじゃない人が職に困っているという状況はあるので、不安はある。プライベートを充実させたいので、それを前提で仕事選びをしている途中。

＜プライベートを充実させられる働き方ができれば、働くことに対する嫌な気持ちは解消されるか？＞

- ・ 仕事をしていく上でキャリアが途絶えてしまう要因に介護や育児などがあると思うけれど、そんな理由でキャリアが途絶えてしまうのは駄目だと思うし、介護とか育児とかも家庭の中でだけ完結するのはちょっと難しいと思う。介護している人は、介護保険や地域包括ケアとかにも接していくと思うけど、1人だけではなかなか難しいので、そういったサービスをみんな活用できて、活用しながら働いていけるような社会になっていけばいいと思う。

＜今探している中で、良い職場や良い企業はどういうところですか？＞

- ・ 残業が少なく仕事の成果と給料が釣り合っているようなところがすごく良いのかなと思う。給料少ないのに色んな仕事を頼まれたら、それは酷使だと思うし、ちょっとひどいかなって思う。つり合いというか、均衡が大事なのかなと思う。
- ・ まだ就活はしていないが、プライベートと仕事のバランスを取りたい考えはある。やっぱり仕事に重きを置いたらプライベートがどんどん削られちゃって、その逆もやっぱりあると思う。仕事もプライベートも充実させたいと色々な人が思っているけど、現実的には、働いている人がその両方を実現するっていうのは難しいのかなと思うので、制度を見直していく必要があるんじゃないかなと思う。

＜仕事とプライベートを両立していく上での難しいポイントがありますか？＞

- ・ お金と時間。
- ・ 育休とかもそうだし、ちょっとした長期休みとか有休取ったりすることで、休みが多い分出世に影響してくるっていう会社がまだあるっていうのを聞いた。そういう会社があったら余計有休が取りにくくなるし、制度があってもそういう会社の空気感があつたら、休みを取れないというか、取りたくないとなってしまう。私の親もそうだけど、育児のせいでキャリアを諦めたり途中で辞めるってことになったりするので、制度があっても空気や考え方を根本から変えていかないとなかなか理想に届かないのではないかなと思う。

＜空気感はどうすれば変わりそうですか？どこが変化すればみんなが休みを取りやすい社会になりますか？＞

- ・ みんなに影響を与えるまとめ役の人とか、偉い人とか、みんなのお手本になる人がやっていけば考え方が少しは変わるのかなと思う。職場の中だとしたらベテランの人が休みを取れば変わるのかな。
- ・ 法律で定めていかなきゃいけないところが多いのかなって思っている。育休や有休など、従業員・労働者の権利っていうものが着実に守られていかないと、ロールモデルになる人がいろんな職場にいるとはやっぱり限らない。
- ・ 有休を取ることにに対して保守的というか控え気味な価値観の職場ってたくさんあると思うけれど、そういう価値観はどうしても今の価値観やワークライフバランスの考え方にも反すると思う。なので、規制や禁止など、使用者がやってはいけないことをちゃんと定めて、労働者の権利っていうものは確実に確保されないといけないのかなと思う。義務とか規制とかっていう半歩引いたようなことじゃなくて、ちゃんと一歩踏み出せるような、法律が作られていかないと実効性っていうものがなかなか無いのかなって思った。

＜仮に子どもができれば働きたいですか？もしくは育休を取りたいですか？＞

- ・ 私は育休を取りたい。こどもっていう時期は、これから成長するにつれて大事な時期なのでちゃんと向き合いたい。

＜その時に職場がどのように受け入れてくれたら嬉しいですか？＞

- ・ 「いつまでには復帰してね」みたいな期限を言われちゃうと、こっちとしても焦ったり、保育園入れる必要があったら受け入れてもらえる所を見つけたりしないといけないし、臨機応変に対応してくれる所が良いかなと思う。
- ・ こどもが生まれる時は、もちろん育休は取りたいって思っている。けど、育児している時でも、2人とも完全に育休取って働かないとなると、やっぱり収入面も結構厳しいのもあると思う。完全に育休取るのは難しくても、例えば1日おきとか1週間とか短い期間でも取るのは大事だと思うし、コロナ禍で広まったテレワークもあるので。職業によってはもちろん出来ないこともあると思うけど、テレワークでも対応できる部分があれば、家でテレワークをすればその分子育ての時間に充てることができるのではと思う。
- ・ 幼稚園とかのお迎えが最近結構あると聞いている。育休だけでは無く、そこから先のことも含めて、時短で上げられたり出来たらいいなというのが理想だけど、そしたら給料が下がるかもしれないという不安はある。
- ・ 最近職場に保育所を置くことが大手企業や市役所で始まっている。そんな感じで、休むのが前提じゃなくて、働きながら子育てする。その場合は、優しくというか、重労働の上で子育てっていうのは難しいと思うので、他の子育てしていない保育所に預けてない人と比べて業務を少し減らして、職場に子どもと一緒にいけるように。そういう新しい方法が最近増えているので、これなら働きながらでもちょっとは楽に子育てできるかなって思う。

- ・ （自分が会社を作る時は）他の人がフォローできる環境を整えたい。1 人が休むときにお金の問題以外にも、復帰するときの周りの視線や圧を感じるのはあると思うので、その人が抜けても誰かがカバーできる、周りの人がフォローできるような体制を元から作っておく。誰が育休を取っても対応できるように、横の関係を、1 つの業務じゃなくて他の人の業務も併せ持てるような体制を先に作っておきたいと思う。

＜行政や国が何を応援してくれたら、企業として体制整備しやすいと思いますか？＞

- ・ 育休制度をちゃんとしている企業に補助金を与えるとか、育休を取った従業員 1 人に対して何円とかがあっていうお金の面。企業の子育て（支援）や育休にあわせて、子育てをもっと支援したい企業と市が持っている保育所が連携して、委託して、その保育所にこどもを預けて職場に来られるといった制度、一般で保育所を使う人よりも楽に（使えるように）する制度があるといいなと思う。
- ・ 独身やこどもがいない人はどうなんだろう。誰かが抜けたら業務が増えたりして、でも結局育休などの休みが取れてないからあまり平等じゃないんじゃないかと聞いたことがある。休まない人の負担が大きくなっちゃうのは、何らか対策していかないといけないのかなと思う。多様性の時代だから、育休だけに偏らない考え方が大事なかな。

＜こどもがいる人、いない人、介護している人など含めて、誰もが希望する働き方をできるようにどんな制度があれば良いと思いますか？＞

- ・ 今までは働きやすい環境の話だったが、働きたい環境に就けるかというのも大事かと思う。私が住んでいる県では、中学生を対象にした 1 週間の職業体験がある。今までは学歴や経歴を見て、経歴が豊富な分就きたい職業を選べるが多かったと思うが、実際に自分は何が好きで何が嫌いとか、自分に合う職業は何かっていうのが、分からない人は多い。あとは、お金を優先しても、お金がもらえるような職業なら何でもいいのか、好きな職業に対する技術はあるけど学歴が無いから採用されないということも多いと思う。例えば加工業や工場だと、その人がどれだけその職に合っているかはテストで分かるわけもないので、どうしても技術が測りにくい。そういうところを、高校生・大学生のインターンで色んな職を見つける。自分には関係ないと思っていた職業でも、一回行ってみたら変わることはあると思うので、色んな職に触れる機会があると良いと思う。
- ・ 今の意見にちょっと付け足して、昔までは転職すると「仕事も辞めてやる気がないやつ」みたいなイメージもあったと思うけど、自分がやりたい職業にしたけどやっぱり自分に合わなかったとして別の仕事に転職するのも、これからの時代には当然合っていることだと思う。今は大企業でも、経験者採用枠のように別の職業をやっていたからこそ生かせる部分もある人材を採っている企業もあると思うので、働きやすいところもだし、自分が働きたい場所で働くってことで、転職の枠組みや自分に合った転職をしようという雰囲気であればもっといい世の中になるのではないかな。
- ・ 働きたい場所選びに関して、男女で入りやすい・入りにくいっていうのはあると思う。それこそキャビンアテンダントはやっぱり女性の方が多くて、実際最近男性も少しずつ増えているっていうのを聞いたけど、それでもやっぱりこれは女性の仕事・これは男性が多い仕事（という印象があると）、入りたい

けど行きにくいというのは男女ともにあると思う。なので、ちゃんと企業側が男女どちらでも入れるよつていうのをアピールや発信してもらうことで、より入りやすくなるのではないかなと思う。

- ・ 総合職と一般職で男女が占める割合は変わってきているような感じがしている。総合職はすごく男性の人が多くて、なかなか女性の人が出世しづらいという環境もあって、そういう職域区分も見直していくべきなのかなと思った。女性の活躍っていうのはすごく大事だと思うし、採用からちゃんと女性が排除されない環境を整えていかなきゃいけない。

● 6次計画の素案について、どんなところがいいと思いますか、また、どんなところをもっとよくすることができますか？

＜基本認識の感想を教えてください＞

- ・ 基本認識で一番印象に残ったのが「ワーキングケアラー」について書いてあるところ。正直、今の自分の年代からしたら介護なんて全然視野にもない中で、確かにそうだなって納得できる部分があった。介護を必要とする人に自分の時間を割いてしまうと、自分が思うような働き方とか自分の時間を全部割かなきゃいけなくなってしまうので、ワーキングケアラーというのはこれからの時代特に少子高齢化と言われている中で結構重要になってくると思う。
- ・ 大人ってやることが多くて大変だなんて。仕事もして子育てもして、介護もして、2番目の基本認識で社会活動という記載もあって、ちょっとやることが多過ぎじゃないか。女性がどんどん社会進出していく中で、「働きやすい職場って色々言っても、子育てを押しつけられたまま働かなきゃいけなくて、結局、そのなかのやるが増えただけ」みたいなことを言っている女性の方がいた。何が大事かっていう価値観も人それぞれで、許容できる量も変わってくるし、介護とかに関しては任せられるところは任せ方がいいと思う。何でも自分で背負うことはないのではないのかなっていうのも示してくれると良いのかもしれない。
- ・ 両立が前提になっちゃっていて、すごく難しいこと言ってくるなって感じ。もっと人に頼って良いということも含めて「自立」だとは思うので、この認識っていうものも重要なかなって思った。

＜家族の中で誰かが働いて誰かが働かないような、家事や育児に専念する人と仕事に専念する人という分け方を選ぶのもあり得る？＞

- ・ ありだと思うけど、難しいと思う。資料にもあったように共働き世帯数の推移を見ても、どちらかの収入だけで生活が成り立たないというか、どっちも働かないといけないうのが現状だと思う。収入への問題とかも解決して、色んな家庭がやりたいような働き方とか育児の仕方とかを決めていけるといいのかなって思った。
- ・ やっぱり両立することはなかなか難しいから、昔はよく地域で支え合う（ようなこと）がよくあったけど、今はご近所さんも知らない人みたいな状態がある。昔みたいな、誰かが支えてくれるみたいな状態を社会全体、政策や制度で作っていけると誰かに頼れるっていう状況が作れるのかな。
- ・ 仕事とか子育てもだし、働くこと自体も男子も女子も選べたらいい。こどもを産んで育てるっていうのも

1 つの選択だし、一緒に働いて子育てするっていうのも選択だし、働くのに専念するっていうのも人それぞれ選択だと思う。人それぞれ選択をしたうえで、選択を支えてくれるような 1 人 1 人が選んだ道をちゃんと後押ししてくれるような社会を実現する感じがいいと思う。両立だけじゃなくて、1 つ 1 つの選択を尊重する。制度だけじゃなくて、コミュニティや町全体で支え合える環境づくりがもうこれからは必要になっていくのではないかな。

＜基本認識をこうもっと理想に近づけるために、入っていた方が良いキーワードや言葉、ニュアンスはありますか？＞

- ・ 基本認識の最初のところで、「就業は生活の経済的基盤である」というのを断定してしまっている。少子高齢化の原因が「長時間労働や女性への家事・育児等の負担の偏り」にあるように書いているけど、それ以前に経済的基盤であるというのを断定しているので、賃金が低いとか、もっとお金が欲しいから長時間労働をすることに繋がると思う。「根本的な原因の解消を図る」と書いてあるけど、私は、根本的な原因は賃金が低いからというか、お金の満足できてないというのが原因だと思う。この問題を一切書いてなくて、ただ働きやすい環境を作るだけの話になっているので、少子高齢化の原因で（賃金を）挙げていないのが、ちょっとどうかと思う。
- ・ 「後押しする」ばかりで、結局企業に頼っているように感じる。最後、「推進」とか「促進」という言葉で終わっていて、結局は企業が頑張っ、て、みたいな。
- ・ 文面がちょっと弱腰なところもあるのかなって思った。「推進」とか、何かふんわりしている。あくまで基本認識っていうか概論なので、そういった表現にならざるをえないところはあると思うけれど、もうちょっと強い表現で書いてくれると、この労働政策に関する本気度が見えてくるのかなって気がした。
- ・ デーセント・ワークという考え方がある。国際労働機関という国際組織が定めたことで「権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる、生産的な仕事」というものを意味する。言い換えると、「全ての人が収入を得るのに十分な仕事がある」、「働き甲斐のある人間らしい仕事」とか「自由公平安全と人間としての尊厳を条件とした、すべての人のための生産的な仕事」とか色んな定義がある。働き方については、このデーセント・ワークの在り方っていうものが国際的には理想とされているところがあるので、そういった言葉や国際的な方針や流れもやっぱり含めていかないと、どういった働き方がいいのかっていうかふんわりとした表現になっちゃうと思う。こういった表現や言葉をすぐ基本認識に盛り込んでもらえると、より明確な指標につながっていいのかなと思う。
- ・ 特に 2 番にも、「意識改革・理解の促進等により」と書いてあるけど、「促進等」とは具体的にどういうふうにするのかっていうのがここに書いてないっていうのもあって、あんまり理解も追いつかない。なんかとりあえずこの基本認識を達成するために、こんなようなことをやっておけばいいんじゃないのみたいな。とりあえずなんか並べただけみたいな感じで、実際それをやるってなったらどうなるのかっていうのが書かれていない。方向性じゃなく、さらにその下の（具体的な）部分までが正直欲しいな。

＜具体的に何をしてほしいかアイデアはありますか？＞

- ・ めちゃくちゃざっくりなんですけど、AI 活用のような。例えば、自分が働きたいって思っていることで、上

司とかにはすごく言いにくいけど、AI ロボットとかに「こんな働き方をしたい」って言ったらシフトが組まれていくとか。みんなの（希望を）集計した上で、そういうのもあっていいんじゃないかな。

- ・ 可能性はあると思う。人よりも分かってくれることもあるんじゃないかという感じがする。
- ・ 具体的な話なんですけど、結局企業に対する政策っていうのは人・モノ・金で動くと思う。例えば長時間労働の削減だったら、その分の「金」を企業に回すとか、「モノ」なら保育所とかを設置するとか、「人」なら役所から専門家を派遣するとか、そのぐらいの話だったらビシッと決まっているというか広範囲に広げられるような話だと思うので書けるのでは。他の人が言っているように、「推進」だけだとちょっと逃げているような内容なので、ちょっとは（具体を）書いてほしいなと思う。
- ・ 「ライフステージや個別の事情等に対応した多様で柔軟な働き方の実現を図る」とあるが、働きがいという言葉も大切なのかなと思う。働きがいがあればその分生産性があがるし、仕事も楽しくなると思う。働きがいが出るような、政策を作っていくのもありなのかな。
- ・ 1 番に「しわ寄せ」という言葉がある。これはさっきの育休の話にもなるけど、結局は「しわ寄せ」で少数の人に対して大きな負担になってしまうところがあって、育休やそれ以外でも、やっぱり人手が足りてないという現状がある。人手が足りてなかったら余計しわ寄せもどんどん重くなってしまう中で、女性で働きたい人が増えて働けるようになったら、それ（しわ寄せ）もちよっとずつ解決していくんじゃないかな。
- ・ 働き方改革って言われても、結局は国としてどう動いているのかっていうのが分かりづらい、企業としてどうことが行われているのかっていうのはあまりまだ見えてないのかなと思う。
- ・ 3 番の「支援・サービスの周知」について、国の支援って申請とか色々しなきゃいけない印象。まずはそもそもその支援があること自体を知らないっていう人もいると思うから、周知する・知らせるってことは大事だと思う。例えば、介護施設に入れるまでもない（けど介護が必要な）人たちは、結構負担が大きくなるけど、その人たちは介護に関する支援について知る機会がどこにあるのかなと思った。介護施設に入れるってなったら色んな施設を調べるから保険とか知れるかもしれないけど、軽い感じの介護の場合、あまり自分から調べようとしなかったら情報も入ってこないし、そしたらもう支援もサービスも受けられないから。普段から（支援・サービスを）知れる場所っていうのを作っていく必要があるのかな。

● 若者や女性が暮らしたいと思う地方にするためには、どのようなことが重要だと思いますか？

- ・ 職場におけるハラスメントが一向に変わらないのと、国としても企業としても認識不足なところがあって対策がなかなか追いついていないところが非常に多い。あくまで禁止ではなくて防止義務みたいな感じで、罰則がなかったりなど法律の実効性が足りてなくて、ハラスメントをなかなか防止できていないというのが現状だと思う。国際労働機関っていうところでは、ハラスメントの撤廃に関する 190 号条約という条約が最近定められて、セクハラとかパワハラとかハラスメント全体について包括的に禁止するというものがあるけど、日本は批准してない。なかなかその国内法の整備が追いついてなくて、

改善されていないというのが現実。やっぱりそういう国際的な決まりとか価値観っていうものを、国内の法律にどんどん反映させてほしいなって思ったし、特に先ほどの ILO（国際労働機関）の条約も国としてやっぱり批准してもらいたいなっていうところがある。

- ・ 何が大事なのかっていうのを明確にしたい、こういうメモみたいなのを作ったけど、世界と日本のギャップっていうところに問題があるのかなと思って調べてきた。
- ・ 最近は結構ハラスメントとかパワハラ・セクハラって結構報道されていて、企業も再発防止策で第三者の社外の通報できるような場所をつくるっていうのもあるけど、毎回何かが起きたあとに作りますということが多い。やっぱり会社の中で通報する場所はあるけど、結局それが上司で言いづらいついていう環境がたぶんあると思う。なので、国とかやっているかもしれないけど、やっぱり最初から社外で第三者の立場でそういう意見を聞いてくれるというか、社外でそういう事案とかをまとめたりするところが必要なんじゃないかなと思う。
- ・ 男女共同参画の話とか国の考え方っていうのは、めちゃくちゃ僕はいいと思っているけど、ただ内閣府の男女共同参画局とか、「経済団体や地方公共団体等の連携」という記載もあるが、特に男女共同参画局っていうのは結構天下り有名。なので、考え方はめちゃくちゃ良いけど、結局国が大きな権力を持って思うがままにやっているというか、実際こう書いとけば、経済団体とかが中抜きしても「書いていることをやっているんだから」という説明がついちやう。そういう大きな団体とかに泳がされないような、男女共同参画の考えのとおり動いてほしいなと思う。書き方的に、私はちょっと怪しいな、そもそも「経済団体とか企業、地方公共団体等が連携して」と書いておけばいいんじゃないか、みたいな感じがした。
- ・ やっぱり一部だけで労働のことについて何かやっついこうっていうのは難しいから、あくまで企業とか経済団体っていうものをマスターとして取り入れたのかなと思った。天下りっていう問題もあると思うけど、色んな主体が関わっていくっていうのはすごく大事だと思う。そうじゃないと、やっぱりなかなか変わってこない問題は多いと思うので。怪しさとか不信感っていうものはもちろん払拭した方がいいと思うし、色んな主体がいるってことは、色んな利害が存在するってことになるので、そういったところうまく調整していけばより良い政策につなげていけるのかなって思った。

< どの団体が連携相手に入ってきたらよいと思いますか？ >

- ・ 労働者の代表とか、あるいは若い人たち。このいけんひろばのように、若い人たちがどんどん発言できる機会があって、そこで出た意見を政策に取り入れてもらえたらありがたいなと思う。今の民主主義だと国会とか審議会とかでとなっても、なかなかそこにアクセスできる人は限られてくるので、フラットな感じで意見を取り入れていけるように、色んな人たちや特に当事者が労働関連の政策に関わっていけたら良いのかなと思う。
- ・ ハラスメントとかの問題があった時に、上司的には教育しているつもりでもハラスメントになることもある。成長したかったけどあまり教えてくれなくて転職するとか、逆に教えてもらったけど、それがハラスメントだっている人もいる。だから、1人1人に合わせた教育というか働ける環境をつくるためにも、人とのコミュニケーションも大事だし、話せる人が会社に1人でもいれば、直接話すことはできなくてもそこから

社会に大きく関わっていけるのでより良いのかなと思う。

- ・ 例えば残業が 1 カ月何時間以上だめってというのは、どんどん規制を厳しくしていけばしていくほど、自分の時間を大切に使えるっていうのはあるけど、仕事が自分の生きがいみたいに思っている人も一定数いると思う。そんなふうに、国や制度や法律で完全に規制するのも大事だけど、規制しすぎるのも良くないと思う。なので、あくまで「しなければならない」じゃなくて「しても（しなくても）いい」みたいな感じで政策とか制度とかも作っていくのがすごく大事だと思う。
- ・ 例えば働くにしても、できるだけ月の残業の上限は何時間まであるけど、できるだけこの時間までに抑えましょう、みたいな。禁止の部分と目標の部分を一応別々に置いておいた方が、いっぱい働きたい人もそこまで（働きたくない）な人も、臨機応変に対応できるんじゃないかな。

<男女差を普段暮らして感じることありますか？>

- ・ あんまり無いかも。やっぱり男性だし、自分は恵まれている方だなって感じる。男女差や何か嫌だなんて思うことは、やっぱり社会に出てみないと分かんないところって多いかなと思う。
- ・ オープンキャンパスに行ったときに、理系はやっぱり男性のほうが多い。今、プログラミングやデジタル領域で女性も増やしていこうという流れがあるけど、もしかしたら入りづらいって考える人がいるかもしれない。まあしょうがないことなのかなって思うことはあるかも。男性の方が、プログラミングとかは得意なのかもしれないけど、そこで女性もどう活躍できるかっていうのが大事になってくるから、雰囲気を変えるっていうことが必要になってくるかな。
- ・ めちゃくちゃ小さなことだけど、男子のプライバシーはちょっと軽く見られているのかなっていうのはある。学校でよくあるのは、男子は別に外で着替えていいでしょとか、トイレも小学校の男子トイレはまっすぐで普通に横から見える状態とか、普通にトイレの仕切りがなかったりする。最近ちょっとずつ増えていたりするけど、仕切りが無いとかちょっとしたところは女性の方は守ってくれているけど、男性は守ってもらえていない部分もあるのかなって思う。
- ・ もともと男性が主体の職場だったところに女性が入るっていうのは、その女性自身も希望する職業に入れるっていうのもそうだし、実際理系に男子が多いのは昔から男子の職場で男子が主流となっているけど、女性が希望した職業に入れたら、その女性の後ろ姿を見てカッコいいと感じて続いて女性も入ってくると思う。その人自身もそのあとに続いてくる話だと思うので、この考え方はすごくいいなと思う。
- ・ 今日朝電車乗ってきて思ったのが、なんで女性専用車だけあって男性専用車は無いのか。女性が保護されるというか大事にしようと思っているがゆえに、逆に差別が出てしまっているのもあるので、女性専用車を作るのであれば、男性専用車も作るべきなんじゃないかなというのは個人的には思う。

<印象的だった意見や、今日の感想を教えてください>

- ・ 今日色々話していく中で、自分が思っていたことと違う意見もいっぱい出た。これからの時代、自分の働き方も少子高齢化で介護とかも入ってくるし、本当に自分が働きたい働き方をしたいって思っても、結局のところ本当にできるのかなって少し心にモヤモヤが残った感じにはなってしまった。けど、すぐ

く色々な話し合いができて楽しかった。

- ・ 私は対面のひろばに 5 回ぐらいは来ている。実際意見が反映されると思ってないけど、ただ、自分はこういう意見っていうのを他の人に言えるし、逆に同年代がどう思っているのかっていうのを聞けるっていうのは結構珍しい機会だと思うので、すごくいい機会だなと思った。
- ・ どういうところで働くのがいいのかとか、働くってことについてなかなか考える機会が無かったので、改めて今日こういう場で考えることができてよかったと思う。国も今どういう考え方をしているのかっていうところをみんなで話して共有とかできたのでそこは良かった。楽しかった。
- ・ 今回は男女の働き方について色々な意見を出し合ったと思うけど、皆さん考えが深くなって感心するところが多かったので、やっぱりすごくいい機会だったなと思う。労働や男女の差についてちょっと視野が広がったような感じがして、すごく楽しい時間だった。
- ・ 今日ここに来るまでに私の考えを自分なりに色々考えてきて話して、ほかの方の話も聞いた時にそれぞれ違う立場にいるからこそ別の意見が出てきて、自分ではこう思っていたけど、ほかの人の話を聴いて、やっぱり難しいのかなっていうのを知れた。これから私も自分自身で考えていく材料にできたらと思った。

3 班（大学院生～学生でない 20 代 4 名）

- 若者や女性が暮らしたいと思う地方にするためには、どのようなことが重要だと思いますか？

<（素案を読んできたという参加者に対して）もしよければ素案について簡単に説明してほしい>

- ・ これから若者や女性が働いていく中で、こういった切り口でアプローチしていくかっていうことが、いろいろな分野から述べられていた。例えば農業や防災の観点のような、さまざまな部分から、こういう切り口があるんじゃないかっていうことが述べられていた。

<素案について気になった言葉はあるか？>

- ・ 1 の(1)にある「固定的性別役割分担意識」。ぱっと目に入った。
- ・ 単語だと「情報格差」とか「意識格差」。
- ・ 「地域の経済活動のみならず、自治体とか PTA」というところ。

<若者や女性が地方から都市へと移った具体的な身近な事例はあるか？>

- ・ 自分の地元には大学がまず無い。大学に行くという選択をしたときに、やはり県外の都市部に行くしかない。そこでちょっと閉ざされた空間から、都会の便利さを知ってしまい、都会に就職する人も多い。大学が近くにあればとどまっている理由にはなるが、出なきゃいけない環境があることが問題だと思う。

<地元の方で大学に進学する方は多い？>

- ・ 地元を出ないといけない人が多い。50%ほどが大学に行くが、その人たちは出ていく。大学に行かない人はとどまっている人が多い。
- ・ 自分は理系なのだが、地元の大学の理系の学部は工学部とかしかない。どうしても細かい何かをしたいと思ったら、県外のそれ以外の学部がある大学に行くしかない。教師になりたいという方もいて教育学部は結構あるのだが、文系でも経済学部などはあまり地元にはないので、どうしても一番近い県外の国立大学や、少し離れた大学などを志望すると思う。そっちの大学に行くどうしても一人暮らしをせざるを得ないので、それで一回出てしまう。
- ・ その次の就職の段階で、地方の方が若干給料が少ない。稼ぎたい人は都市部に出る。自分はその都市部の大学に通っていたのだが、就職後もどうせならその都市部に住んじゃうかという形でとどまっている。都市部と地方の給料の格差は感じる。
- ・ 自分の地元では大学や専門学校、短大も含めて基本的に中央の都市部のほうに集まっている。進学、最終的には高校以降の大学となると、中央の都市部にまず行ってしまう。仕事でも、やはり田舎だとやれる仕事に限度があるので、いろいろと選べるわけでもなく選択肢は狭い。なので、必然的に同じ県内でも都市部中央に行ってしまう。あるいは県外のもう少し大きい都市に行ってしまう。

<経済的な基盤があれば地元に戻るか？>

- ・ まだ就職はしていないが、良い就職先があれば全然考えられる。だが、都会と比べるとやっぱり劣る。地方で暮らすのは意外とお金がかかる。例えば車がないと生きていけなくて、結局お金が掛かるから共働きになったり。そうすると（地元に戻るのは）どうなっていくのかとは感じてしまう。

<それでも地方に帰りたいと感じる理由は？>

- ・ 家族がいるから。良い会社があれば良いなと感じる。
- ・ 去年就職活動をしていたのだが、地元の会社と今の県外の都会の会社を比較して、地元の会社の給料が県外の都会の会社を上回っていれば、考えていたかもしれない。地元は実はどこにでも行きやすい。郷土愛から帰りたいなと思う。
- ・ 給料が高ければどっちに行ったかなとは感じる。他の地域は分からないが、地元の人は、県外の都会の給料と比較する人が多い。その県外の都会と比べて（地元の給料のほうが）低いというのと、そこまで（地元から）遠くないということでその県外の都会に行く人が多い。自分もそのパターンだと思う。
- ・ 自分は就職にあまり乗り気ではなくて、さっと入れる地元の企業に就職した。都市部の会社に就職できるならいけるかもしれないが、自分はお金よりも良い感じに生きていければという思いがある。あとはやっぱり自分のやりたいことをやりたいなと思う。お金はほどほどもらえれば良い。
- ・ 自分は今大学院生で就活中で公務員志望なのだが、公務員はそこまで仕事に差がない中で、給料面の違いが目立っている部分があるので、一般企業の場合と確かに違う見方ができるかもしれない。
- ・ 結局やりたいことがその地域で達成できるのであれば残ったかもしれないし、逆に無ければ外に出ざるを得ないかなと自分は思う。

<お金以外の軸は？>

- ・ ずっと地元にいるとレベルアップ感がないなと感じる。例えば RPG ゲームでは、レベルアップすると違う街に行く。ずっと地元において、周りの子はもう一人で都会に行ってるとか一人暮らしをしているみたいな話を聞くと、一人だけ取り残されている感がどうしてもあった。
- ・ 友達で地元に戻って今働いている人はいる。ダサいとは思わないが、都会に行った方がレベルアップ感があるというのは確かに分かる。

<都会を経験したことがない人はどう思うのか？>

- ・ 憧れがあるのだと思う。

<一回地元を離れた後、また戻ってきた人はなぜ戻ってきたのかを知っているか？>

- ・ 家族がいて「帰ってきてほしい」と言われ、戻る選択肢を選んだという話は2、3人から聞いた。
- ・ 大学は関東、就職先が地元近郊の都市部という方は、その都市部と地元は本当に近いので、地元からすぐに通える場所で給料もそこそこ良いという理由で戻ってきたと聞いている。

- ・ 地元から県外の都会の大学に通っている友達がいて、来年就職で地元に戻るらしいのだが、地元にも何もないといつも言いつつも戻っている。なぜ戻るのかは分からないが、理系だったので専門分野が活かせるところっていうのと、過ごしてきたっていう安心感っていうのがあるんじゃないかなと感じている。
- ・ 都会での仕事を退職して地元に戻った人は知っている。

<その人は何が良くて地元に戻ったと言っていたのか？>

- ・ そこまで聞けてはいないが、退職のタイミングで戻ったのは聞いている。出戻りだと思う。

<何があったら地元を出ないか？何があったら地元に戻るか？（女性目線になって考える）>

- ・ 一番は子育てのしやすさ。例えば母子家庭とかになってしまうとかなり大変ではあるので、そういった福祉とかが整っていることが非常に大きいことではないかなと感じる。
- ・ 地方は割と子育てしやすい環境ではあるのかなと感じる。周りの友達とかを見ていると、「別に結婚しなくても良い」や「別にこどもはいらない」という人が割と多い。こどもが欲しいという人は確かに地元に戻っている人は多い。同学年の女子は割と文系の大学に進学していた。文系の大学だと私立の大学に行く人が多くて、そういう人は都市部、あるいは国立でも法学部とかは自分の県にはないので出てしまう人が多いが、逆に男の子は残る人がかなり多い。それはどこの県にも工学部がたぶんあるからで、工学部が地元で就職が強いので地元に残るという選択肢を取っている人は結構いる。あとは、ワクワクが都会の方があるということを大学で気づいてしまうと、なかなか戻りにくいと思うので、もし戻るとなったら、やはり交通の利便性とかが結構大事なのかなと思う。一回外に出て一人暮らしをしてみると、お金がかかって奨学金を借りたというケースもある。そこで奨学金を借りてしまうと、地方に戻ってどちらかというと見劣りしてしまう賃金水準を見て、働いて返せるビジョンが見えなくなるというのもあると感じる。
- ・ 自分も地元の周りの女友達を見ていると、地元近郊の都市部に集まる。その都市部にはおいしいごはんがたくさんあったり、イベント事も毎週のようにある。程よい街で交通の便も良いというところに残る人が多いのかなという印象。

<都会にアクセスしやすい地方ならむしろ住みたい？>

- ・ それはあると思う。
- ・ やっぱ、都市部の大学に通って就職は地元という人は男女問わず多い。東京とまで言わなくても程よい中核都市にアクセスしやすいという要素は重要。地元から都市部は快速で一駅で、20分と近い。
- ・ 自分の住んでいたところは都市部まで電車で1時間ほどかかる。大学に通えないことはないが、という感じ。頻繁にその都市部に通っている人はよくいるし、自分も通っている側。田舎にいながら都会の暮らしはできるが、そこまで近いわけではないから、その都市部に就職するんだったらそこに移って戻らないかなと感じる。

＜他に地方に残る、戻る理由・要素はある？（女性目線で）＞

- ・ 地方には古い考えがまだ残っている。田舎に行くと女性は家庭に入るものだという考え方も多いので、都市部に女性は残るのではないかと。BBQとかを親戚とかとすると、やっぱり多く動いているのは女性が多い印象。特に意識はしていないと思うが、やっぱりそういうのはある。

＜実感としてそういう経験はあるか？（性別ごとの役割など）＞

- ・ あるにはある。
- ・ 自分の所はあまりそこまで激しくはなかった。
- ・ 口に出しては言わないが、結果的にそうなってしまっている感じはする。大学の女友達でも、早く専業主婦になるという考えを言っている人もいる。それが悪いこととは思わないが、口に出さない方が良くなっていくのではないかと感じる。
- ・ 最近は改善に向かっているのではないかと感じる。今はネットの方がひどく、何かあるとものすごく叩かれる。女性の方も昔と比べて強くなっているのではないかなと感じる。

＜他に地方に残る、戻る理由・要素はあるか？（女性目線で）＞

- ・ 子育て関係が重要。明石市のような、子育てに対しての支援が充実している地域があれば、こどもを育てる目線ではそういうところを選びたい。地方は、地域のつながりが強い点が良い点でも悪い点でも魅力の一つかなと感じる。都会で自分の部屋にこもっているだけではなくて、地域とのつながりを持てるとか、公民館に行つてつながりがあるとか、何かそういった部分で居場所が多いのかなと思う。
- ・ 子育て自体は地方の方がしやすいのではないかと個人的に思う。2世帯3世帯同居が自分の地元では多い。同じ敷地の中に、おじいちゃん・おばあちゃんとお父さん・お母さんとこどもが住んでいるという形。自分の地元はあまり賃金が高くないので、逆に言うと共働きをせざるを得ない。働きにお父さん・お母さんが出て、おじいちゃんおばあちゃんの面倒を見るみたいな家庭は多いので、家族によるかという面では子育てはしやすいのかなと感じる。

＜内閣府の調査では、出身地を離れる理由に「希望する進学先が少ない」や「やりたい仕事や就職先が少ない」ことを挙げている人が多いが、皆さんの感覚としてはどうか？（担当課）＞

- ・ その通りだと思う。

＜大学進学で都市部に出て、また戻りたくないような地方にすれば良いという意見が他の班であった。皆さんは地方でも都市部の出身なのか、それとも地方の出身なのか？社会人になって地元に戻りたいと思うか？（担当課）＞

- ・ 環境があれば戻りたいと思う。自分は奨学金も借りて大学で研究していたので、奨学金が残った状態では地方に戻らず、都会のほうが待遇や奨学金の返済支援が充実している会社が多いので、そういった都会の会社に就職した方が良い気がする。

＜都市部にアクセスしやすい地方なら住む選択肢はあるのか？（担当課）＞

- ・ 今地元近くの県で仕事をしている。その前は地元の県の下の方に住んでいたので地元の都市部に行くのに 1 時間半かった。そこから更に県外の大きい都市に行くとなると非常に時間がかかるし、東京に行くのも飛行機で移動。都市部まで 30 分 40 分で行けるのは良いなと思う。

＜地方だとアクセスが悪いし、都心部の方が給料が高いいので、都市部で就職する人が多いと聞く。一方で、男性特有の地方で暮らしにくい理由や偏見はあるか？（担当課）＞

- ・ 男性だから荷物を運んでよとか、仕事を任されたとか。嫌というわけではないが、男性だからという理由そういう扱いを受けたことはあった。
- ・ 地方だと、実際に言葉で言われてはいないが「男はこう、女はこう」という雰囲気がある。若干田舎にいくと多いなと感じる。
- ・ 昔の慣習や、女性は家庭・男性は仕事というのはある。ただ、今のご時世の世論や流れとしてはどうかと、少し懐疑的ではあるかな。そういった考え方に敏感になっているところがあるので、強くは言えないと思う。少しずつ変わっているところではないかなと思う。

＜キーワードで目に付いたものとして、農業、防災、自治会、PTA、情報格差、意識格差などがあつた。このなかで、地方で比率が多いと考えられる農業（第一次産業）に若者や女性に入りやすくなるには？＞

- ・ 水産業を大学で専攻しているので、漁業者との繋がりはある。私自身はそのおいしい水産業をもっと広めたいなという思いで研究している。地元でも、「魚が取れないし経費が上がってなかなか厳しいから、自分の家族には継がせないつもりだ」「きつい・汚いというイメージがあるので、若者がなかなか入ってこない」という話もよく聞いた。こういう面やイメージが払拭されないと、なかなか地方で農業や林業や水産業をしてくれる若者を増やしていくというのは厳しいかなと思う。
- ・ わからないというのが第一印象。イメージとしては農業も漁業もほとんど継いでいるイメージがあつて、自分から新しく始める人はそんなにいないと思っている部分があるので、（農業や漁業に）関わっていない人は（自分が働く）イメージを持たないまま一生を過ごしそうだなという印象。
- ・ 地元は水産業も農業も畜産もあるので、小学生の頃から体験する機会がある。ただ体験して思うのが、まず根本的に大変だなと。その仕事をしている人を目の当たりして大変だなんて分かるので、基本的に後継ぎとかじゃない限りはやりたがらない。地元の農業高校もそもそも定員割れ。地元にある第一次産業系の高校（10 数校）のうち 2～3 校以外は全部定員割れで人が来ない。地元で農業や水産業をしている人もいて、色々と盛り上げようとしているけど、人が足りないと言っている。まだまだ減っていくし、悪循環になるかな。

＜小学生で体験することで、逆に大変さや悪い印象を与えている？＞

- ・ 仕事としてやってほしいというよりも、経験を通しての青少年の育成が主軸なので方向性が違うと思う。ただ、農業系を仕事に選ぶかという、あまり伝わらずに大変なイメージがついてしまうのかな。

- ・ 最近同期に農業を実家でやっている方がいたり、農業の関係者と触れ合える機会が増えていたけど、一番初めに農業というものを触れたのは、たぶん小学校の歴史だと思う。歴史でどの年代も農家がハッピーだった時代ってなかった。飢饉だとか、重税にあえいだとか、どの時代も農家はみんな苦しうだから悪いイメージがついたのかなって今振り返って思った。

＜農業に悪いイメージがついている若者に、地方で農業をやってもらうには何があれば良い？＞

- ・ 悪いイメージを現役の漁師さんとかが言っちゃっているので、さらに増幅されちゃっている。結構、自分の子は別に（継がなくても）いいとして、お子さん特に女性とかはホワイトカラーの仕事に進まれる方が多いかなと思う。やっぱり安定していないっていうのが一番大きくて、安定していない上に経費がかさむし魚は取れないし儲からないっていう話を聞いる。安定していないところをどう支えるかというのが大事なのは。

＜経済的な安定基盤があれば農業をやりたい？＞

- ・ 田植えは同期に頼んでやってみる、10月に連れて行ってもらおう。

＜そう思ったきっかけは？＞

- ・ 米の値段が上がって同期の家庭が黒字になっただけで、面白そう、やってみようと思った。
- ・ 破格の給料を出してもらえればやる。めっちゃ稼げたらやる人は多いと思う。
- ・ お金は大事だと思う。ホワイトカラーに勤めるのも安定しているから。農業・林業・水産業は安定していないので、お金は確かにあった方が良く思う。ある程度の収入がある中で、新しいことにチャレンジできる環境っていうのが、農業の魅力を増やせるポイントかなって最近は思っている。

＜新しいこと、とは？＞

- ・ ICT や AI を活用した農業とか。陸上で水産物を養殖する人も多くて、サーモンが特に流行っている。そういうチャレンジができる環境だったらワクワクする。だけど、お金がかかる。
- ・ 大変さが勝たないか。大変で辞めたりしないか。お金で多少頑張るって人もいると思うけど、それでも賄いきれないっていう人もいると思う。

＜大変さを軽減するために何が出来る？＞

- ・ 重いものを運ぶ時にロボットスーツを使ったりすると聞いたことはある。機械の面で少しは（軽減できる）と思うけど、限度はあります。

＜今日の感想＞

- ・ 意見交換の最後の方が結構印象に残っている。農業ってどうすればいいんだろうと思っていた。まず女性云々の前に、男性でもなる人がいないんじゃないかという問題があったので、AI や機械で少し

でもきつい部分を楽しんで、女性でもできる仕事にすることはできるんじゃないかなって思ったのが印象に残った。

- ・ 地元に残らない理由に大学や仕事がないこと、戻っても働く給料は良いのか、子育てや交通の便、ワクワク（があるのか）というところが論点だと感じた。地元には、その地域に対する期待感があれば良いのかなと思った。また、農業（第一次産業）を都会には基本的に無いものとして考えるなら、第一次産業をどうやって魅力的に見せるかが大事ではないかなと思った。
- ・ 地方って言っても色々な所から皆さん参加されていて、ひとえに地方の問題といっても、本当に色々な問題があるんだな、エリアによって違うんだなと思った。農業も、毎日食べているものなので、コツコツ自分も貢献しないとかなと思った。
- ・ こういう話し合いに4・5年ぶりに参加した。以前は「ユース・ラウンド・テーブル」っていう形だったけど、（いけんひろばに）変わってから初めて気が向いたので参加した。ファシリテーションも昔に比べてちゃんとしていてすごく話しやすかったし、思ったより充実した時間が過ごせてすごく良かったと思う。農業については、国策として力を入れてやってほしいなと、個人的に研究していて思っていたので、話が出て面白かった。

4 班（高校生年代～大学生 4 名）

- 6 次計画の素案について、どんなところがいいと思いますか、また、どんなところをもっとよくすることができると思いますか？

＜男女が共に活躍できる暮らしやすいみたいなキーワードで、皆さんの中で理想としている社会ってどんな社会ですか？＞

- ・ 2 つあって 1 つ目が行きたいところに行けること、2 つ目が欲しいものを手に入れられること。行きたいところに行けるっていうのが、自分の住んでいる県だと、市内から本州に行くのに 2 時間かかる。県の有名な観光地からだバスもないし、電車もないので、本州に行ったら車しかないという状態で。ものの輸送も大変なので、やっぱり（その）2 つは地区を作る上では結構必要な要素ではないか。
- ・ 言いたいことが言える（社会）。
- ・ 地方に関するの流行りとか。県のマスコットキャラクターとかをかわいがることで、県民全体が幸福になる。
- ・ 外国の方も最近多いので、多様性が大事だと思う。
- ・ 例えば、意見がすぐに行政や、政府に言うことができるのが理想かなと思う。地方で暮らしていて、不便なことも多い。だけど、それを直接、地元の市や県庁に言う機会もないし、市役所に言うとしても、自分から「市長さん会わせてくれませんか？」と言わないといけないので、もっと行政と市民のアクセスを簡略化というか、スムーズというか、ハードルが下がればよい。
- ・ やっぱり県民の幸福度はマスコットキャラクターがいるからこそ幸福度が上がる。

＜男性も女性もどちらも共に活躍できて生きやすい社会っていう意味で、こういう社会にしたいという理想と現状にギャップがあれば、より良くこうなっていてほしいところ、逆にそこがまだまだだなと思うところはどこですか？＞

- ・ 大学で地域のことについて勉強している関係で、自分の研究分野だが、地方って本当に今も男尊女卑が結構激しくて、一番身近な例でいくと、女性が大学に行くのを親が反対するとかは、結構地元の中では割と起きていることでもあるので、そういう社会はその地方にとってのマイナスなイメージを持たれかねないという要素になるかなと考えています。
- ・ 女尊男卑、女が優勢な場所もある。自分は公共科の人間なので学校のことも知っているが、やっぱり女性が優秀というか、やっぱりすごいなと思って、女性が活躍すぎて、われわれ男性は何やっているのか。ちょっとなんかここ最近ちょっと女性が有利だと感じるときもある。

＜それはどういうときですか？＞

- ・ 学校や学生団体とかで、そこに女性がリーダーをしていると思うので、「ちょっと俺たちは何やっているだろ」って。立場がちょっと女性の方が上かなっていうのは感じる。

- ・ 課外活動系は、やっぱり男子より女子の方が参加している数がたぶん倍ぐらい違うので、意見の通り方も男子はちょっとみたいな感じになってしまう。
- ・ 県で学生団体を起こして、今 20 人がほとんどのメンバーが女子なので、あとは例えば学校・地域を超えて学び合うイベントに参加した時もおそらく半分以上女子みtainな感じなので、人数の差によって意見の出しやすさが変わりそう。最近パワハラとか、ハラスメントっていう言葉が多く、それによって、きつめに言うというか、指摘すると、それはハラスメントになってみtainな。やっぱりハラスメントって、男性が女性に対して行うものっていう、固定概念があるから、なかなか数的に劣勢になったところでは、意見が言いにくいのは確かにあるかなとは思いますね。

＜男性の意見が通らないこともあると思うが、その通らないときにどういう理由があってそれが通らないと思いますか？＞

- ・ 立場上の問題だと思う。
- ・ もうそれ以上踏み込めないというか、踏み込んだら、逆にチームや団体として足並みが揃わなくなるので、少数派なので多数派の意見に合わせる必要があると思っている。
- ・ 地元でもあからさまな男女差別があったりする。
一方で大学の中や、さっきの話し合いの場等もそうだが、所属の学部も男女が結構混ざり合っている。意見は男女関係なく出てくるはずなので、意見を言わないのは、ちょっと違うかなと個人的には思う。言わなかったら通らないでしょと思う。明らかに、「お前男だから黙っている」とか、「女だから黙っている」というのは絶対駄目だと思うが。
少数派だから言いたくないとかは、その人の思い込みの領域に入ってくるので、ちょっとずれているのではないかなと感じた。
- ・ 女だから男だからっていうのは感じない。自分の学校が、よく意見を聴いてくれる先生ばかりで、誰かが声を上げると、校則がすぐ変わる学校であり、私服登校になっている。
- ・ （女だから男だからというのを）感じないというのは非常にいいことだと思っていて、それはもう理想的な状態になっている。

＜性別について理想の社会ができてないところもまだ世の中にあるが、それは具体的に何がみんな出来事としてあるか？また、その理想の社会、性別が平等の理想社会をイメージした時に、そうでない現状はどういうときに感じるか？＞

- ・ たぶん、家でお父さん、お母さんがやっていたりしゃる家庭では、お母さんが料理作っていることが多いと思う。もしお父さんが（料理を）作る機会があったとしたら、自分はどう感じるのかを皆さんに聴いてみたい。
自分はお母さんに料理を作ってもらっていたので、お父さんの料理を作ると、「おっ」てなる。そこで「何作っているの？」みたいな話になって、出来上がったものを食べると、「うんまー」みたいな感じで。
なぜ（料理ができる/できないに）男女の違いが生まれるのか？という疑問を持っているので、皆さんのご意見が聴きたい。

- ・ （お父さんはお母さんに）勝てないでしょ。
- ・ （お父さんはお母さんに）勝てないかな。
- ・ お店だったらコックさんは男性のイメージ。家ではお母さん（のほうが料理上手と思うのは）なぜか。

＜今の質問で、料理をしている人は誰か聞かれたら、どちらの性別をイメージするか？＞

- ・ 女性。
- ・ 場合による。映画のグランメゾン・パリみたいな感覚。キムタクが何か料理を作るみたい。高級レストランだったら男性の方がイメージするが、それ以外のファミレスとかだと女性のイメージが強いから高級か高級そうでないかで変わる気がする。

＜家庭内で料理をしているのは女子のイメージが強いが、お店だと男子のイメージが強くなると、その違いはなんだと思うか？家でしているのと外でしている人の違いは？＞

- ・ 職業が家事かの違いだと思う。
- ・ ぐるナイの番組とか。
- ・ 昔だと旦那さんは仕事で奥さんは家みたいな考えがあったからでは。
- ・ 学生の男女がそれぞれ大人になって家庭持ったとして、だいたい女性の方がご飯を作と思うが、今は女性が作りたくないけど、作っているのか、それとも料理が好きだからとか、誰かに食べてもらいたいという思いで作っているのか、どちらなのか。
作らされているのであれば、それは男女差別になると思う。作りたいと思って作っているのなら、別にその家事の分担はあってもありかなって思う。
- ・ 家族で暮らしている以上、外食という選択を削ったら、自分たちで作らないといけなくなるので、女性が女性だからという理由で、お母さんとして作らざるを得ない。
作りたくないのに、夫婦で生活していく上で役割が固定化されているのはよくない。

＜普段の生活でこう私、自分たちが持っているなって感じるバイアスがありますか？＞

- ・ 例えば僕はルイボスティーが大好きですが、でもこれ買うとそれ飲むのみに言われる。自分の使っているルーズリーフ、これもピンクだが、これを使っていると二度見されることも結構あって、その二度見の意図はわからないが、まあでも少なくともこのファイルを使っているときにしか、その視線が来ないので、なにかがあるだろうとは思っている。やっぱり自分の買いたいところは使いたいってことと同義なので、そういうのがバイアスとしてかかっているのかなと思っている。

＜自分が使いたいとか欲しいな買いたいなって思うことが、性別が原因で使えなかったり、買えなかったりすることがあるなど、それは皆さんも同じような経験がある。＞

- ・ 水ゼリーあれ関東しかないの？水ゼリーは厳密に言うと本州しか売ってなくて、九州に持っていくと、プラスに感じているのだけど水ゼリーなんてあったの？ってなる。だからこういう名物があってもいいんだよね。本州限定商品で、九州とかそこに売ってないものが来るとみんな水ゼリーてこんなものと思って

喜ぶんですね。限定商品とかはいいと思う。

- ・ 僕が住んでいるとこの近くのショッピングモールに百円ショップと、普通に百円ショップと付属しているちょっとおしゃれ感がアップしている生活系量販店のようなお店があり、その中に女性コーナーみたいになっていてピンクっぽいやつが多いところがあって、それはちょっと買いにくいっていうか、まず入りにくいんですよ。
- ・ それは完全にコスメ商品だね。最近もコスメ商品も男性向けのやつが増えてきて、女性のやつもここ最近男性とか使っているし、俺は全然平気で買っているのですが、他の人が進んでコスメ商品買っていない人多すぎて、「えっ、男性ってコスメ商品使うものじゃないの？」って思う。皆さんなんか、認識が低いですね。自分は大切に使っています。
- ・ 学校の話で、制服がここ最近セーラー服とかの男子が増えている。女性はズボン買ってよかったんですけど、男子がスカート履くと「うん？」となるので、制服に関して感じることもある。

<今日の資料を見て、ここは言っておきたいとか、ここは話しておきたいなというテーマはあったりしますか？

>

- ・ 最近、男性の育児休業が増えたのはすごい。これ公務員ですよね。民間企業が増えているのは分かるが、残りの 20%10%がまだ固定概念が残って企業があるので、そこを指示してほしい。やっぱり人口減っているのに男性も協力するっていうのは私も大事なので、私も 10 年とか数年後にパパになってから、ちゃんと協力してあげたいなって気持ちはあるので、そこはあと 20%10%を国から援助してもらえばいいかなと思う。
- ・ 22 ページのグラフの一番左に「希望する進学先が少なかったから」というのは地元には大学が 4 つしかないで、ほとんどみんな地元を出ていく。確かに大学をこれから地方にいっぱい作るのは、無理があると思う。人口も減っているのに、大学を増設するっていうのは、不可能に近いと思う。でも育ててみて、自分が東京で育ちたかったか、地元で育ちたかったかって思うと、今思ってみると、地元でよかったなっていうのがあり、やっぱり育つ環境として東京みたいに過密じゃないし、空気もきれいで、交通の不便とかはいろいろあるが、それでもまだ成長段階のうちに、そういう自然に近いところで過ごせたのはいいなと思う。大学で一旦出ていた人を、子育てするために地方に戻すことができれば、地方の問題でいくつか解決できる点があると思っている。教育は確かに地方の高校よりも都市部の高校の方が進学実績が良かったとか、その後の人生の道として都市部に進学する方がおそらく有利っぽく今は見えている。半年間京都に通っていたことがあって、京都っていわゆる学生の街って言われており、学生に対する支援がすごく手厚く、至れり尽くせりみたいな。学生が何でもできるスペースがある。こういう感じのスペースが何個もあって、そこに学生が集まって最近始まった探究授業をやる課外活動を何かやって、そしてそれを地方に還元するみたいなのが行われているところがある。個人的にはそういう町って魅力に感じていて、もしもこどもができたなら、そういう学生が動きやすい町で育てることができたらなあと思う。子育て世代、子育ての年代の人たちを地方に呼び込むためには、そのこどもに対する教育面での魅力として、行政が何か集まれる施設を作るのがいいと思う。

● 若者や女性が暮らしたいと思う地方にするためには、どのようなことが重要だと思いますか？

＜地方から都会に引っ越した経験とか、そういった話を聞いたことがありますか？＞

- ・ 地元では車の渋滞がひどい。その渋滞のせいで時間がどんどん遅くなって。都会は電車がある。やっぱり福岡とか大阪も含めて電車が走っている。公共交通のエリアが軟弱。地元から郊外に行く人はよいが、郊外から地元に行く交通が軟弱すぎて、交通の便が悪いのは重い。特に離島だと空港もあるが、輸送とかちよっとコストが足りない。軟弱なので、そこを強くしてほしいというのが一番かなと思う。

＜最近、若者とか女性が地方に出て、都市部に出て行こうって動きが見えているっていうのがあって、その原因が何なのか、若者とか女性にとって住みにくい街になってしまっているのか、それともまた他の理由があるのかどう思いますか＞

- ・ 地元は高校3年生の子が県外に進学することがすごく多い。なぜかという県内の大学が少なく、自分の通っている学部が特殊なので、そういう特殊な学部もあるんですけど、なんかノーマルな学部があんまりなかったりする。例えば薬学部とかって地元になかなかたりするので、薬学部やりたかったら、〇〇県とか、都市の国公立だったらもっと狭まるので、そういうところに行かざるを得ないっていうのがある。学びたい学問をやるために外に出て行くっていう理由は少なからずあるかなと思う。
- ・ 就職で分かるが、就職先が少ない〇〇県、最近の半導体とか DMC とか増えたじゃないですか。半導体とか機械系行くのでそれもいいけど、僕だったら交通とか行きたい。その交通系の企業が少ない。ブラック企業に近いような企業がありすぎて。休日も東京都並みの休日がちよっとないなあ。印象が重くて、僕も県外に行くけど、やっぱり地方はもうちょっとなんかなんか、中立とか給料とかっていうの、充実してほしいなというのが1つ。
- ・ 仕事の話だ。お給料ですよ、都会の方が給料高いような気がする。給与とか年収が少なかったからって言う人が多くて結構1つの問題になっている。

＜希望する進学先が少なかった、地元から離れたかったから、親や周囲の人が干渉から逃れたかったから3つは特に女性の方が高い割合で若者が地域を離れる理由として考えているところがあって、ここに対して皆さんは共感するのか、そうでもないのではないかなと思うが、どうですか？＞

- ・ 男性は地方に残っても問題ない。先生が過干渉すぎて地方に残ってください、残ってほしいっていうのが強いが、女性は結局やっぱり自立社会が欲しいっていうか、やっぱり女性ってそういう都会に行くことを憧れていることが多いかな。

＜こういう壁があるから、若者とか女性がこう地域を離れてしまうのではないかなというところで行くと、皆さんの中で若者や女性が感じている壁ってなんだと思いますか？＞

- ・ このグラフを見ていると、おそらく多分男性の方が地方に残っている。女性の方が都市部に出ていっ

ていると思う。もしかしたら一定数の男性は多分継ぐ家が存在するのだと思う。自分の家も代々僧職でお坊さんなので、お父さんもお坊さんおじいちゃんもお坊さんって全員こっに残っているみたいな感じで、おばさんはちょっと出ていっている。やっぱり男が家を継ぐっていう、そういう習慣習わしがあるからこそ、男子の方が逆に地方に拘束される率が上がるのかなと。そういう選択肢を考える間もなく、自分はこの会社を継ぐから残るってということが起こっているのかなとは思う。

- ・ 自分のお父さんも、実家に一応（仕事を）引き継いでいる。女性はその通りですね。
- ・ 「希望する進学先が少なかったから」が、男女ともにそれなりの数が特に女性が多く出てくると思うが、自分のやりたい学问（に対して）行くところがなかったっていうのも、結構大きな理由だったのかなと思った。別に希望する進学先が少なかったからと、都市に出たってだけでマイナスのイメージになるのは違うかな。別に進学で出てもいい。でも、地元に戻りたくないような、地方を目指すのが筋なんじゃないのかと思う。地元になんか医学部を次々作ったとしても人は来ない。もう都会の今ある大学資源を使って、そっちに行ってもらって、都会で学んでもらってから地方に来てもらった方が、最終的な帰着点は、地方で住みやすく暮らしてくれるってことなので、そういう意味ではこの調べ方はちょっと違うのではないかな。

＜戻っていきたくないと思わせてしまっている地元になっているということは、若者や女性に対して地域のなかで何かあると思いますか？＞

- ・ 周りの人が怖いからかな。不安もあるかなと思う。戻ってきていいのか、不安はあるかなと思う。
- ・ 戻ってやることあるのかな？と思う。例えば、希望する進学先が少なかったって感じた女性の方はたぶん県外に進学して、そこでたぶん県外の大学に行くと思うが結婚する相手って大学か仕事先で付き合い始めた人が多いと思うので、都市部の男の人と付き合ってしまうと、その男の人はたぶん都市部に就職すると思うのでその男の人と一緒にいる限りは地方には戻ってこれないのでは。
- ・ 男女にルールがちょっと違いますね。学校の校則は絶対男子女子って別れていた。特に制服・髪型・身体に関する（校則が）顕著ですけど、これはルールを変えて男女統一してほしい。

＜例えば具体的にこういう校則とかあったりする？＞

- ・ 眉毛や髪型（のルール）も全部解決してほしい。一言あるとしたらもう法に則ってくださいって。男女関係なくそのルールを通してほしい。

＜今すでにこういう校則があって、その校則の今変えてほしいというところはどこですか？＞

- ・ 僕の学校は髪型の規定が結構厳しいが、男は男らしい髪型でと（記載が）あり、男らしいってなんですか？と感じる。耳にかかってはいけないと、前髪も眉にかかってはいけないとか。当然パーマをかけてはいけない。ストレートもダメみたいな色々ある。女子も女子である。ここまでこれより下は絶対結ばないといけないとか、いろいろある。男子も男子で伸ばしている方が好きですって言っている生徒も何人か一定数はいるので、女子も髪を伸ばしていいのであれば、男子もいいじゃないか？みたいな（校則）はあった方がもしかしたらいいかもねっていうのは思う。

- 女性と男性が共に活躍でき、暮らしやすい社会を実現するために、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか？

＜理想に対して足りていない要素と、すでに足りているから続けていってほしいことはありますか？＞

- ・ 官民連携による男女共同参画の推進に関する、「男女共同参画センターが、地域の様々な関係者相互間の連携・協働を促進するための拠点として」の記載について。男女共同参画センターは全国に配備されていると思う。でも、地元の男女共同参画センターが何をしているか皆さん分かっていないし、僕も知らない。せっかくの男女の差を是正するための機関が知られてないというのは問題だと思うので、もっと周知するのが大事だと思った。

＜それは例えば学校の授業でやってもらうのかなのか、それともこういうセンターがもっと発信を頑張って地域の新聞とかに載せるとかなのか。どういう取り組みがあると、特に皆さんのような若者に届くと思いますか？＞

- ・ やっぱり教育かな。小学校や下手したら幼稚園からとかでも、「男だからこう女だからこう」という意識がおかしいことに早く気づいてもらうことが大事だと思う。一回のみならず継続してそうした教育をしていくことが大事で、そのためにこのセンターがあるよ、と教育していくことが望ましいと思う。
- ・ 現代の多様性について学べる授業ってあるのか。例えば学校とかで、英数国理社会ではないので、性差はないことを例えば保健体育に組み込むとか。指導要項などに何か男女に関することを入れるべきだと個人的には思います。
- ・ 公民の授業に男女に関する内容が入っているはずだが、それは選択科目で必修科目ではないので、公共と社会科教育を必修科目にしてほしい。

＜学校や教育のなかで、どういう時に男女共同のような言葉を聞きましたか？＞

- ・ 高校の探究で聞いた。
- ・ 中学校も高校工業科で学校全体の講演会みたいな場所があったと思う。講演会を発信してもいい。

＜バイアスを持たずに共同的な考えをみんなが持っていくためには、もっと若い段階から教育が必要だと思いますか？＞

- ・ 小学校から供給するべき。

＜小学校でどういうことを教えたらいいですか？＞

- ・ 家庭の当たり前を見つけてもらって、それを変えていくってことが大事かなと思う。例えば、お母さんが料理をするっていうのが正しいわけではないっていうのを伝えるなど。自分たちの発見を通じて教えていくというのがいいのではと思う。
- ・ 身近なバイアスを探すっていうのがいいと思う。男女が積極的に関わる機会があったほうがいいと思う。僕が小学校のうちは普通に壁なくしゃべっていたが、中学校に入ってからいきなり男女の間にど

間に壁が出てきていく。思春期が近づいていけば、それがより増していく。でも、やっぱり男子だけ女子だけで固まっていると意見が偏ることも絶対あるので、授業の場を使って半強制的にして継続的に男女を交わらせていくというか、関わる機会や交流して話す機会をずっと持ち続けることが、変な偏見を持たない方法かと思う。

<学校で1つテーマを置いた時に、どのような仕組みがあれば、それが解決されるだろうか？>

- ・ 小学校の道德の授業でいいのでは。道德の授業では人の関わり合いや倫理的な話をしていくことが多いので、テーマとして扱いやすいのでは。
- ・ 同じく道德だと思う。
- ・ 男女に関わる機会。オンラインゲームでもいい。
- ・ 学校以外でも同学生団体、学生団体とか。このいけんぐらすも含めて男女で関わる機会があってもいいと思う。
- ・ もっと地方であってもいい。東京だけに集まるのは、結構地方の人にとっては不便だと思う。

<最後に言い残したことはありませんか？>

- ・ 企業の支援などに関わる育児休暇も国からでもいいし、地方自治体からでも（支援を出す母体がどこかは受ける側にとって）関係ないので子育て支援とかを出してほしい。
- ・ ベーシックインカムを受領する。外国の方がやってそれで10人ぐらい健康になったっていうか、中国のデータがあると思うのでベーシックインカムがあればいいかなと。
- ・ 地方で生活する上での壁をなくしていくことが、その地域にひとが行っていない（現状の）ハードルを壊すことにつながると思うので、新しく（改善策を）やっていけばいいじゃないかな。たぶんやっているとは思うので、むしろ継続してもっとやっていけばいいのではないかなと思う。

<例えば、どんな壁ですか？>

- ・ 進学の時とか、就職の時とか、人間関係の時とか、本当にいろいろあると思うので、正直考えられる要素は全て入れていいと思う。
- ・ 学校で道德の授業でやると言っていたが、特別活動みたいな時間を利用して、道德の資料を用いて学年規模でもやれたらいいのではないかな。
- ・ やっぱり先生たちの考え方ですか。やるかやらないかは、先生たちの考え方から変わりますよね。
- ・ 全国統一で通用する答えはないと思うので、各地域、特にその地域の内情を知っている市区町村ないしは、都道府県が主体的に暮らしやすい社会にしていこうための取り組みをしていく必要があるなっていうのは聞いていて思う。答えは無限通りにあると思う。そのために、国からある程度の資金は、やっぱり渡すことが必要なんじゃないかなと思う。

<自治体ごとに目標を設定すると目指す方向性がずれてしまうということになると思うが、全国で統一できるものとして、どういうふうな目標があればいいと思いますか？>

- 例えば、いろんな人、都会に住む人も含めて、すべての人が地方に移ることを抵抗なく、言える状態になるっていうのが僕は理想だと思う。そのゴールは崩しちゃダメで、そのための手段は各々で選べばいいと思う。
- その手段としてもっと各地方県は、それぞれの県の魅力をもっと出し合うべき。今現段階では東京っていうすごい都市があるので、東京ばかりにスポットライトがあって、それ以外は影みたい。大阪とかも、スポットライト当たっているが。地方は都市部に比べて劣っている存在みたいな形で言われがちだが、でも逆に地方にも都市部にはないものがある。でっかい車に乗りたい人だったら、都市にいるよりも、絶対あの地方に行った方が道も広く乗れるとか。そういった地方ならではの魅力をもっと地方自治体は努力して、例えば実際に暮らしている人たちとか、集める機会をちょっと設けるべきかなって、地方に暮らしていると思う。

<今日の全体の感想とあともし言い残したことがあればお願いします。>

- 今日は男女に関する話だったので、ちょっと若者の地方とか、そこに住みたいという件について話したが、地元は水がおいしいです。その魅力を発信しつつ、地元も含めて地方とかに手当を、移住手当を分厚くするのが一番かなと思っています。そういう移住では分厚いも含めて、「あ、ここに行きたい！」みたいにしていきたい。20代の学生分厚く、子育て支援、とりあえず中央に向けて分厚くするというのもう一番かなと思っているので、地元もいい場所なので、地方の今後にスポットが当てたらいいなと思います。
- 皆さんも今日ありがとうございます。今回難しくてあんまり意見言えなかったのが、反省点かなと思っていて、すみません。男性と女性が生活しやすい環境をつくるには、結構時間かかるかなって自分で思っており、みんなの理解が必要じゃないかなと思うので、みんなとの交流の場がたくさんあればいいなって思った。
- 結構難しい話題で、僕はどうしてもこの専門領域なので、自分と重ねながら話していたのですが、こういう世界が実現するのも結構難しいことだというのは改めて思った。やっぱりその答えは無限通りにあるので、決めた答えが正解とも限らないし、その正解はもうその時にならないとわからないので、ちょっと難しいことではあるが、諦めずに気長に頑張って、みんなが笑顔になれる社会になるのがいいのではないかなと思った。
- お疲れ様でした。今日その地方とか男女のことに対して、これだけ短時間でここに多くの人があったのは、普通にその単純にすごいなと思いました。話を聴きながら、最終的に何十年か後とかには自分の思い描く将来生活、こんな生活がしたいっていうのとなんか住みたい住めるそれに適した県をマッチングできるようなのができたらよい。ライフスタイルに対応し、じゃああなたはこの県に住むのがいいかもねみたいな感じで、アプリかサイトかソフトかで地方をブランド化して、マッチングして、移住促進みたいなのがあれば面白いかなって考えていました。

5 班（高校生年代～大学生 4 名）

- SNS やインターネットでの性差に関する誹謗中傷や攻撃的な投稿、他人による個人情報の拡散などを経験したり、見聞きしたりしたことはありますか？ また、それらを防ぐためにはどのようなことが重要だと思いますか？

＜普段、SNS を利用する中で、性的なコメントや誹謗中傷、本人の同意のない自撮り画像の拡散などを経験したり、見聞きしたりしたことはありますか？＞

- ・ 女性が男性を差別する投稿が多い。男性が女性に対して心肺蘇生を行ったり（男性が女性に心肺蘇生をして訴えられたという事例を背景に）、痴漢冤罪があったりなど。
- ・ SNS を見ていると、男性から発される女性への差別が、女性から発される男性への差別よりも少ない。男性から（の発信）はあるが、女性からおかしいと指摘しやすいようにしたい。誹謗中傷に関して、友達が実際に誹謗中傷されて、落ち込んだり病んだり（しているの）を見聞きしたことがあるので、国や警視庁がパトロールしたら嫌な思いをする人が減らないかなと思っている。
- ・ 1 日中スマホ触らない（というルールがある）サマースクールから戻って、SNS を見ると、現実より過激に感じた。現実と比べて強い言葉がすごい大量に流れてきて、SNS は異常に強い意見の集まり方をしている。主語が「男が」とか、「女が」とかみたいな投稿が多く、日常で使わない言葉が SNS を通してみんなが強い言葉に慣れてしまっていて気づかない状態になっている。
- ・ 課外活動で感じたのは「SNS で自分の知らないところで仲間内のグループができていてうざい」とか、別の人たちと同じようにいじめでやり返してしまう。SNS の使い方を勉強してもなお、そういうことが起こってしまい、SNS を使っている以上なくなる問題だと思っている。

＜他の人の意見を聴いて追加したい意見はありますか？＞

- ・ 現実より強い言葉が常態化しているのは SNS が持つ匿名性が強いのでは。誰か個人を特定していないからこそ、大きなことが言えたり、逆に誰かを特定するような意見も発したりすることができる。匿名な部分はみんながみんなを認め合えることに繋がれば（よい）と思えるが、攻撃性をもってしまふのが SNS の特性になってしまい自分の中で解決策が思いついていない。
- ・ 匿名性はなんで攻撃的なことを言えるのか興味がある。対面で話していただいたらいきなり主張を言い始めることはできないのに、匿名になるとそれができるのはなぜだろうか。相手が傷つくから優しくしないと意識が薄れる。リモートならより薄れるのか？ など、何が作用してそうなるのか（攻撃性を持つのか）気になる。SNS だと、普段人に話すわけじゃないつづきも言えたりする。匿名性の何が問題になるのだろうか。それがわかれば改善方法もわかると思う。インスタだと顔が見えるので誹謗中傷はなさそうだが、Twitter は顔が見えないので誹謗中傷はありそう。
- ・ AED を男性が女性に対して使用したときに訴えられてしまう懸念がある。国や行政の単位で問題ないとアピールしていけば疑問が起これないはずだが、過去に訴えられた事例があり使う事例が減ってしまう。SNS の誹謗中傷に関しては法制化が進んでおらず、罪の意識自体がない。あくまで感想を言

っているだけで相手の気持ちを思っていない。思わずとも身バレしないから、個人情報バレることはないという過信もあるのではないかもしれない。

- ・ まさか自分のコメントがみたいこともありそう。選挙も似ていて、若い人の投票率が低いのは自分一人の意見でほかの大勢の人の意見を変えられないからいけないが、3割ぐらいいたと見たことがある。誰かに対して嫌いといったことがそんなに広がるとは思わなかったとか、自分が思ったことを気軽に発信できる手軽さが他害性に繋がっているのでは。
- ・ Twitter の公開アカウントで投稿するのは東京ドームで叫ぶのと同じ（くらい）影響力があるが、認識としては監視カメラもない部屋にいるつもりで投稿してしまう。でも例えばフォロワーが百人いるのであれば、百人いる部屋で叫んでいるのと本当は同じ。だけど Twitter の場合は、つぶやくことは 1 人である時にポツツと言う意識になってしまう。トイレで何か言うみたいな意識になってしまうが、本当にやっていることはそうじゃないと思った。
- ・ 今の時代、小学生とかでもインターネットでショート動画アプリに出ているので、小学校の 1 年生とか「小さい時から 1 人でつぶやいているんじゃないんだよ。みんなが全校集会でいるところで、言っているのと同じなんだよ」という感覚を小さいころから持っていればこんなふうになっていないのでは。自分たちの世代って中途半端に使い始める感じのリテラシーの黎明期みたいなところで、使い始めに学ばず始めてしまった。始めて慣れたなって思ったぐらいで「こういうですよ」と言われても、「なんか言われてもな」と感じの人がいっぱいいて、いまみたいになっているのでは。今の世代の人に呼びかけると同時に、今の小さい（低年齢）世代にも同時的に呼びかけるのはこれから（ネットでの誹謗中傷を）減らしていくのに大事なんじゃないかなという、改善案として思いました。

＜他に何か改善した方がいいところある？ 社会全体や自分たち 1 人 1 人の認識でもいいが、例えば意識を変えていこうとか、社会全体でこう変えていこうみたいな感じで考えている人いるか？＞

- ・ なるべく早く教育を整備するのは大事だと思う。弟はそれこそ幼稚園年長とかからタブレットを見ているが、自分はスマホとかタブレット見たのは中学 1 年生だったので、それは普通に時代の差だと思う。私が小学生の時はなかったし、見ていて不安にもなるし、早く幼稚園小学校から、今までなかったからこそ作らなきゃいけない。時代は SNS によって変わっていているという前提で、授業をちゃんと入れなきゃいけない。例えば新しい科目にするとか、生活科にいれるとかそれぐらいめっちゃ小さい頃からやっていく風潮を新しい時代だからこそ 0 から作っていかないとけない。
- ・ 本当に本気で指導要領を変えるぐらいの勢いで、全年齢を対象に盛り込まないと変わらないのかなと思う。軽くやるだけでは変わらなそう。
- ・ しっかり教科としていっぱい時間を取ってほしい。年に 1 回講演会とかではなくもっと時間がほしい。学期の初めと終わり少なくとも欲しい。
- ・ 1 回教えているだけじゃ伝わらないから毎年毎年繰り返して学んでいくといい。
- ・ 螺旋階段みたいな学び方がいいのでは。理科って内容としては小学校から同じだと思っていて、同じ内容で段階をステップアップして登っていく。それと同じ感じで SNS のリテラシーも、人が嫌がることを言っちゃダメだよとかから始めて、人の気持ちを考えて、ちゃんと自分の中でこれは言っているか判断

できるよねとか。年齢を超えても改めて実感持ってもらうために、同じ内容だけどステップアップしていく。

- ・ ただちゃんと考えようねっていうだけでなく 1 つのつづきやきがこうなっちゃったんだよっていう事例をたくさん挙げることで意識してもらえそう。

＜どうやって事例を挙げたらいいか？＞

- ・ 歴史の資料集とか社会の資料集みたいなイメージがあって。インターネットが出てきてから 10 年、15 年くらいで、もういっぱい事例がたまっていると思う。「ちっちゃい出来事がこんな大きい結果につながって、これだけの人が傷ついた」みたいな事例を、資料集っぽくまとめて扱ったほうがいい。現実味がないと伝わらない。歴史を学ぶときもそうで、例えば黒船来航の写真とか、ビジュアルで説明があるからわかりやすい。（ネット）リテラシーも、文章（だけ）とか注意事項だけじゃなくて、「こうしたらこういう結果になった」という過去の事例を学ぶべきだと思う。

＜それって動画がいいのか紙媒体がいいのか、電子媒体がいいのか、どういう形がいいか？＞

- ・ 手元に残せるものと、授業の中で体験できるもの（の両方があったほうがいい）。実際に授業でそういうものを疑似体験することで、現実感が出てくるんじゃないかなと。実名は使わなくても、A さん B さん C さんみたいに役割を振り分けて順番に体験してみる。そうすると嫌だなとかつらいなっていう気持ちが残ると思うんですよね。ちょっと過激かもしれないけど。そういう嫌だった記憶があれば、将来 SNS を使うときに思い出して、抑止力になるのではと思います。
- ・ 今こうして慎重に授業を設計するのって、ある意味すごくいい体験になりそうですね。
- ・ やる年代をどうするかって話なんですけど、もし実際に今使っている年代の子たちでやると、本当に現実で起こりそうだなって思ったんです。いじめってどの年代になっても絶対になくならないし、リアルなんですよね。リアルすぎるからこそ、「これ嫌だったでしょ？」っていう声かけが、逆に「ほらお前、嫌だったろ」みたいな感じで、そこから本当にいじめになっちゃう可能性もあるなと感じました。
- ・ 実際、授業で似たようなことをやった記憶もあって。ロールプレイングみたいに「SNS 投稿に気をつけよう！」っていうテーマで、動画を見てから、こういうつづきやきがこうなりましたって振り返りをして、さらに実体験してみようと先生が適当にグループを分けて、この人はこういう立場、このグループはこう考えようみたいに進めると、もしそこにいじめる側といじめられる側が同じグループにいたら、いじめる側が過激なコメント役をやって、その後に（いじめられている側が）しんどくなるリスクはあると思う。その辺はすごくシビアに考えないといけないと思う。
- ・ 例えばテーマを性差に関わるものに絞ると、例えば、先生が急に「女なんて大学行かなくていい」とか言い出すと、「めっちゃ嫌じゃない？」ってなると思う。性差に関する誹謗中傷とか攻撃的な投稿って、主語が誰か特定の人に向かうっていうより「女子は～」とか「この地域の男は～」みたいに集団に対する攻撃が多い気がする。そういう根強い価値観を体験的に扱うのは有効かもしれないなと思います。授業設計次第で良くも悪くもなるから、工夫すればすごく有益な授業になると思います。
- ・ いじめは完全にはなくならないと思って考えた方がいいと思う。本当に法律で罰則を作っちゃうくらいの状態にした方が状況はよくなるんじゃないかなと。殺人と同じで、日本の法律って「人を殺しちゃダメ

です」とは書いてなくて、「人を殺したらこういう罰を受けますよ」という形で罰則を規定することで、ある程度みんなが抑止できていると思う。SNS の誹謗中傷やいじめも、言葉が曖昧だからずっと起こってしまう。もし「これは犯罪です」と認識を広められれば、件数はもっと減るんじゃないかなと思う。もちろん教育現場での指導要領の改善も必要だが、一方で法律の整備も必要だと思う。さらに官民連携で、地域の人たちや家庭も含めて「スマホの使い方」をきちんと教えていくことも必要だと思う。結局は社会全体で一致団結して取り組まないといけない。

- 例えば SNS で投稿するときに「この文章は攻撃的なので投稿できません」みたいに出るような機能があればいいと思う。差別に関するものとか、無意識に投稿しちゃうこともあるけど、そういうときに「これは攻撃的だから投稿できません」とストップがかかる機能があればいいと思う。それと同じで、投稿しようとする画面に（投稿できませんと）出てくるような仕組み。アプリを作る会社がそういうシステムを導入すればできると思う。
- 関連で TikTok の例では、ライブ配信にはそういう機能がついていて、コメントをしようすると主催者側でフィルターをかけられる。そのフィルターは差別的な言葉とか、暴力的な言葉を強くブロックする機能があって、コメントしようとしても「このコメントは投稿できません」と実際に表示される。それによって罰則があるっていうのは今のところ聞いたことがない。投稿を止めはするが、アカウントの停止とかは、たぶん開示請求とかがないとできないのでは。一時的に利用を止めるとか、端末ごとに制限をかけたり、あとはアカウントと紐付けして、その人がどの端末からもログインできなくなるみたいなやり方もあるかもしれない。個人情報保護との兼ね合いがあるから難しいけど、法整備的にうまくできれば普通の投稿にも適用できると思う。
- 法整備について、もっと厳罰化したり、法律の範囲を広げること自体には賛成。日本は法治国家だから裁判もあるし、ちょっと違反したからといって全員がすぐ刑務所に行くわけじゃない。だから裁判がある以上、法律を厳しくすること自体には基本的に賛成。アンコンシャス・バイアスみたいなもの、例えば「女はこうすべき」とか「男なんだからこうすべき」という発言。誰かにそれを向けているわけじゃなくて、ただ投稿しているだけなのは違法なのかは難しく、それを違法にするか線引きが難しい。それを法律で取り締まるかどうかっていうのは、やっぱり難しい問題だと思うんですよ。「殺してやる」みたいに直接誰かを傷つける発言は取り締まって違法にすべきだと思うけど、偏見とか差別的な表現の度合いって、人によって受け止め方も違うし、全部を法で縛るのは難しい気がする。
- プライバシーの問題と表現の自由の問題はずっと言われ続けているテーマで、学校の授業でも「これは永遠の課題だ」と先生が言っていた。

＜先生が上から決めるのではなく、自分たちにも「こういうルールを作りたい」と言える場があったらいいなと思うか？＞

- 実際に議論するとなるとやっぱり学が必要だと思う。大学で学んだ学位や修士が必要だと思うし、先行研究をちゃんと学ばないと本格的にどうすればいいかは議論できない。「それ 10 年前にやって失敗したやつだよ」となるかもしれない。中高生でも考えることは大事だけど、本当に制度を変えるには大学で学ばないといけないと思う。考える訓練はもっとすべき。中高生の意見を反映させるという

よりは学んでから出ないと本当の対策は話し合えないと思う。

- ・ 小学生のころは心がまだ純粹だから、ネットのルールやマナーを覚えやすい。でも大人になると小学校の時に習ったことはあまり覚えてなかったりする。
- ・ 螺旋階段を上るように段階的に、忘れていくからこそ繰り返し学び続けていく仕組みが必要だと思います。
- ・ 手を洗うとか歯磨きするみたいに習慣化して、「ネット上でも現実と同じように悪口を言ってはいけない」って感覚を体に染み込ませるのが理想。インターネット上で言うことは現実でも言えることにしないといけない。
- ・ 小中高生の教育にばかり焦点が当たりすぎている気もする。実際には大人になってからも、いじめや SNS での誹謗中傷があるので、労働基準法みたいに、大人に対しても民間であっても公務員であってモテラシー教育を続ける仕組みが必要だと思います。それが形骸化して適当になると意味がないが。大人 = 精神が発達しているからいじめはうけないというわけではなく、大人だからこそ変な知恵が働いてより卑劣ないじめや誹謗中傷が増えることも想定される。
- ・ 結局、誹謗中傷は投稿者側が相手のことを考えられないくらいストレスを抱えているから出てくると思う。だから、ストレスを解決すること自体が大事だと思う。

＜じゃあそのストレスをどうやって解決するか？＞

- ・ ストレスを発散したくて無意識に攻撃的な投稿をしてしまう。ストレスの原因自体を減らしていく。
- ・ メンタルケアは必要。こどもも大人も関係なく、みんなそれぞれストレスを抱えているし、大人になればなるほど社会の中で抱えるストレスも多くなる。
- ・ 定期的に面談したり相談できる仕組みを国全体で作ることが大事だと思う。例えば、自分が以前働いていた先では、定期的に上司と面談があった。仕事の困りごとや人間関係の悩みを気軽に話せる場があって、内容が深刻なら「〇〇相談室」とか労働組合に引き継がれる体制も整っていた。実際に自分も一度、勤務中に上司と 3 時間半くらいみっちり話し合ったことがあり、本当に心が楽になった。やっぱり「誰かに話す」ってすごく大切で、ストレスをなくすためにも、相談できる仕組みをもっと広げていくことが効果的だと思う。
- ・ ちゃんとした企業に勤めている人だったら、相談できる人がいたり労働組合があったりするけど、日本の傾向として現場で働いている人とかって必ずしも職場に相談できる場所があるとは限らない。例えば生活保護を受けている人とかだと、そもそも職場っていう関わり自体がない場合もある。そうすると、福祉がもっと役割を担うべきだと思う。学校にスクールカウンセラーがいるみたいに、行政として人と話せる場所や機会を作るのが大事だと思う。一人でずっといると画面上に恨みが行ってしまい、どうしても視野が狭窄しがち。だから行政が孤独感とか絶望感を強く抱えすぎないようにケアするのは理想的だなと。
- ・ 職場での相談や面談を法律で義務化するのはどうか。
- ・ 生活保護を受けている人の相談窓口も自治体によっては設置されているし、これから広がっていく傾向にあると聞いた。生活保護を受けている人だけじゃなくて、誰でも相談できる場所にしたい。気軽に

相談できたり、居場所を確保できたりするって、これからの社会でとても重要だと思う。

- ・ 人との関わりを持つのはライフステージのどの段階でも本当に大事で、一人でいると閉じこもりがちになるけどふさがちになり、意見が言えないまま溜まっていったストレスになってしまう。福祉の世界では誰かに話す、聴いてもらうだけでも気持ちを整理できる。別にアドバイスをもらう必要はなくて、ただ聴いてもらうだけで自分の中のもやもやが整理できたり、より問題が明確になったりする。そういう相談窓口がもっと整ったらいいと思う。

● 6次計画の素案について、どんなところがいいと思いますか、また、どんなところをもっとよくできると思いますか？

<素案について何か意見ありますか？>

- ・ 1枚目の裏の2個目にある「裾野を広げる」が具体的に何のことか分からなかった。分野の人材数を増やしたいのか、研究分野を広げたいのか。人材数を増やすという意味なら、能力を上げるなのに関わる人を増やすなのか、もう少し具体的に書いたほうがいい気がする。
- ・ 2ページ目の上の四角の下から3個目で「女性研究者・技術者の～」で始まる文で、最後に「企業等への積極的改善措置の取組支援が必要である」と書いてあるが積極的改善措置って具体的に何をすれば良いのか。「ポジティブアクション」という言葉も曖昧。

<自分だったらこういうワードだったらいいなと思ったりする？>

- ・ 例えば人数での割合を義務化するのはどうか。京都大学の理学部でも女子枠っていうのを作っているが、やっぱり女性を何人登用するとか管理職のうち何%は女性にするみたいに、数値目標をちゃんと定めていく形が良いと思う。
- ・ 北欧の地域で議員のうち何割は女性にするなど決めている国もある。
- ・ 「積極的改善措置」という言葉を使うなら、注釈が必要だと思う。企業とか学校とか教育機関の人が見てもわかりやすくなると思う。補足で具体例とか図解があれば、伝わりやすさが変わると思う。
- ・ 「アンコンシャス・バイアス」という単語が出ているが、例えば「女性は科学技術系の進路に向いてない」とか「進んでも苦労する」みたいな。アンコンシャス・バイアスがどのような方向性のものか具体的に書いてほしい。

<レイアウトや表記について、点数をつけるなら何点？（100点の人？と言って手を挙げなかった方がいらっしゃり、その流れでの発話）>

- ・ 文章全体のレイアウトもちよっと読みづらいなと思った。箇条書きの丸がついているけど段落が整理されてないし、見た目ポイントが分かりにくい。上の人に合わせた文書なのかもしれないですけど、もっと色づけしたり、ポイントを強調したりしてあげた方が分かりやすいと思う。
- ・ ぶっちゃけ読みにくい。

＜これを出されて読もうと思う？＞

- ・ ポイントを把握してわかりやすくする。ぱっと見でわかりやすくしてほしい。今のままだと最後まで読まないで結論が分からない感じで、議論にすぐ時間がかかる。何行目のどこにあるかわかりにくく、どこを探せばいいのか迷うし効率が悪い。長くてもいいがパッと見て「ここが大事」って分かる構成にした方が、絶対議論もしやすくなると思う。
- ・ 公用文用語例集の手引きに基づいて書いてあるのだろうけど、公示用語例集における分かりやすさが上の人目線での分かりやすさになっている。でも実際に有権者である 18 歳の子にこれを渡して「理解できる？」って聞いたら、難しいのではないかなと思う。もっと根本的に本当にみんなに伝わるのかというところから考えて書かないと、本当の意味で分かりやすい文書にはならないと思う。
- ・ テーマでは男女が平等に社会に進出できるっていうのが理想だと思うが、逆にそれを意識しすぎるあまりに男性を置いてけぼりにしてしまうのではないかな。例えば、まったく同じ能力を持っている人が男女でいたときに、女性の割合が少ないからっていう理由だけで女性を優先するのは違うのではないかな。仮に男性のほうが能力が高い場合でも、女性を登用するとなると、男性側もそれは不公平に感じると思う。過度に女性だけをひいきしちゃうと、それは新しい問題を生んでしまう心配もある。
- ・ 改めて文言を見てみると、確かに女性を主体にした表現が多い。具体的な指標がないのでいくらでも（女性優遇って方向に）解釈できちゃう。だからこそ、具体的に数値で指標を出しておいた方がいい。目指すだけだと抽象的。
- ・ 例えば管理職の 50%を女性にするという数値目標を立てると能力的に男性の方が高いのに、女性が先に登用されるみたいな現象が起こるかもしれないが一時的だと思う。過去 100 年とか 200 年の間は、逆に同じ能力でも男性だから登用されるってことが起こってきたから。だから是正の過程で逆転現象が起こるのは、ある意味必要なことだと思う。最終的には平等が実現されて、男女関係なく能力で評価される社会になるはず。でもそこにたどり着くまでは、どうしても一時的にバランス調整のための逆作用が必要なんじゃないかなと。
- ・ 裏付けとして、北欧の国々では女性議員の割合がすごく高い。そこに至るまでの過程が気になった。もし逆転現象があったならそういうものだと言えるし、なかったならどうやって回避したのかを学べばいいと思う。
- ・ 理想は女性だから男性だからじゃなくて、その人の実力だけで判断されること。でもまだ実力だけで平等に評価できるレベルには来てない。男女で受けられる教育の平均値がまだ違うから。男女平等に高等教育を受けられるようになってから、能力で評価するのが意味を持つようになるのでは。もし女性の方が平均的に能力が低いと見えたとしたら、それは教育格差のせいだと思う。だから教育環境を整えないと、性別関係なく採用しても結局は人数が偏ってしまう。
- ・ 小学校から今までは男女同じように理科とか数学を学んでいるし、むしろ女の子の方がテストの点数高いこともよくある。大学進学になると、特に理系は一気に男女差が出てくる。教育自体を変えるよりは、女子は文化系に進みなさいとか女性らしさみたいな固定観念に対して見方を変えてみる教育が必要だと思う。
- ・ 高校までは人数に差は出ないのに、大学に行くと一気に男女比が偏る。東大も女子が 2 割か 3 割

の壁を越えられていない。

- ・ ここ 10 年くらいで大学進学率は男女ともに上がってきているし、男子は大学、女子は短大っていう思い込みも弱まってきている。改善の兆しはあるので、大学進学の実選択肢をどう広げるかが重要だと思う。
- ・ 自分の経験話をすると、〇〇大学のオープンキャンパスに行ったときに、数学科の研究室を訪ねた。集合写真を見せてもらった、学生 99 人中 98 人が男性で、女性はたった 1 人だけで、それを見たときに「あ、日本で数学やるのは無理かも」って一瞬思った。別に男性が多いこと自体が嫌なんじゃなくて、生活の中で女性がほばいない生活っていうのがかなりきついのではないかな。女性同士で遊びに行くとか、体の悩みを相談するとか、そういう日常的な部分も共有できない。それがすごく大変そうに見えたり、自分の進路選択にも影響した。
- ・ 日本の亭主関白的な価値観が根強く残っている部分もある。特に地方ではその傾向が強く、進学率も都市部に比べると低い。女性はもちろん、男性も含めて本人の意思で大学に進める環境を作ることが大事だと思う。やっぱりお金の問題も絡んでくるし、学費負担は親御さんが背負うことが多いので、本人が行きたくても親の意見は無視できない。だから結局、国単位で保護者の考え方も一緒に変えていかないといけないと思う。変えていくというよりは、親御さんとか周りの人に理解してもらってという部分が大きいと思う。本人が行きたいところがあるなら、それを国として支援してあげる仕組みがあってもいい。もちろん奨学金制度もあるけど、結局あとで返さなきゃいけない、本人にとっては結構大きな負担になる。もっと本人の希望に沿って進路を選べるようにしてあげたら、その結果として女性が社会に出ていく機会も自然と増えていくと思う。
- ・ 自分の同級生でも国文が情報かで悩んで結局情報に行った。都市圏だとそういう選択肢が比較的自由に取れて悩みがない。自分のやりたい分野を選べる環境があると思う。
- ・ でもやっぱり地方だと大学自体の数が少ないから、じゃあ上京して通おうってなると一人暮らしが必要になる。生活費とか全部の負担が一気にのしかかってくる。自分の親戚の地元には、〇〇大学はあるが、結局東京に出るのはかなり大変。もちろん中には一人暮らしで頑張って通っている子もいるが、やっぱり苦労している話もよく聞く。それも一種の教育格差だと感じる。

＜これからの男女が活躍できる社会をつくるうえで、まとめとしてこれだけは言っておきたいというワンワードはあるか？＞

- ・ 人って生まれるときに性別を選べない。自分で男に生まれるか女に生まれるか決めたわけじゃなくて、ただの偶然。だから男性だから女性だからって分けるのではなく、もしかしたら自分は逆の性で生まれていたかもしれないって想像すること、それを認識することが大事だと思う。
- ・ 結局いろんな制度や法整備があるにしても、一番根本にあるのは相手に寄り添えるかどうかという部分だと思う。男女が生きやすい社会を作るって考えたときに、まず根っこに思いやらないと始まらないので、そこを一番大事にしたい。
- ・ やっぱり最終的には性別を考えずに人を能力で評価できる社会が理想だと思う。でも今はまだ教育の機会均等が進んでないから、それが難しい状況。だけど本当は性別なんか気にしなくても自然と男

女比が偏らない社会になるのが最終的なゴールだと思う。つまり、女性だから、男性だからということ
を気にしなくても不利益を感じることがなくなる社会を目指したい。

- ・ 全体のテーマが男女が共に活躍できる社会って書かれている。でも福祉の視点からすると、男女と分ける時点でやっぱり世の中にはいろんな人がいて、いわゆる男性として生きたい人もいれば、女性として生きたい人もいる。逆にその逆を選ぶ人もいるし、どっちにも当てはまらない人もいるし、どっちにもなりたいたいという人もいる。そう考えるとそもそも男女っていう区切り自体をテーマからなくすべきかなと思った。すべての人が活躍できる社会ってテーマにするといいのでは。もちろん、社会的に男女の区別が必要な場面、選挙とかトイレの中ではあると思う。でも本当に考えるべきは男女というより「すべての人が活躍できる」という男女で分けないジェンダーフリーの考え方が大切だと思った。
- ・ 「男女共同参画」って言葉の言い換えはやっぱり難しい。すべての人と言うと、人種の話なのかどこを指しているのかがぼやけちゃう。だからオールジェンダーみたいに、SOGI 性的指向とか性自認とか、その人が持っているアイデンティティが何であろうと全員って意味を込められる言葉があればいいと思う。男女共同も2つな感じがする。どの要素を持っている人でもの意味にしたいが表現は難しいと感じる。

＜この「男女が共に活躍できる社会」という表現について、LGBTQ+が当たり前に語られるようになって
いる今でも「男女」と書いている理由があるのか気になった。（参加者から担当課への質問）＞

- ・ 性的マイノリティの人も取り込んでみんなが暮らしやすい様な社会になればいいと思う。性的マイノリティと男女の性差は抱えている問題が違う。性的マイノリティはどうしても受け入れられないとか、男女以外は考えられないみたいな理解が不十分なところがあり、理解を高めていくために内閣府の別の部署が同じような計画を考えている。男女に関しては性差別や性的役割について、女性が社会に出て働いたり、男性が育児したいと思った時に子育てを妻に任せればいいと言われたみたいな意識があり、自分が選択したい選択肢を選べない点を改善しようと考えている。（担当課回答）

＜最後に感想をお願いします＞

- ・ 自分は社会福祉系の専攻なので、こういう話は授業でもよく扱う。ただ、福祉以外の人がどれくらい関心があるんだろうと思っていた。今日みたいにいろんな分野の人が関心を持っていると分かって、すごく嬉しかった。より福祉の分野から世の中を動かしていきたいと強く思った。ありがとうございました。
- ・ 社会問題がどうしたらなくなるか考えるときは、やっぱり一人で考えるより、みんなで意見を出し合った方が勉強になると感じた。ありがとうございました。
- ・ 自分では思いつかない意見をたくさん聞けて、多様性ってこういうことだと実感した。公務員を目指しているため、これから一人一人の意見を大事にしたい。ありがとうございました。
- ・ 今日の議論を通して、いろんな新しい疑問が自分の中に生まれた。考えるきっかけがあるのはありがたいし、同時にここに参加できていること自体が恵まれていると感じた。教育を受けてこういう議論に参加できるのは、誰でもできることじゃない。今日ここにいて話せていることが幸運だと感じた。今日はありがとうございました。

6 班（大学生～学生でない 20 代 3 名）

● 学校や職場など日常生活において、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見を感じたことはありますか？

- ・ 体の大きさとその人がどれほどの重さを持てるかが比例されているように思う。（例として、吹奏楽部で男性の方が重たい楽器担当になるなど）
- ・ 体育の授業が違う。
- ・ 部活動のジャンルによって男女比が異なる。私が吹奏楽部に入った時は女性の方が多かった。

<ジェンダーバイアスや男女比のバランスが違うと感じたことはあるか？>

- ・ 社会人になってジェンダー学を学んで初めて、こんなにも男女分けがあったんだとか、男性や女性に偏りすぎているとか学問として学んで実感した。
- ・ 例えば歴史の教科書に登場するような偉大な人物は圧倒的に男性が割合を占めていて、女性は少ない。歴史の教科書にあまり出ないほど女性は偉大になりにくいんだって知らないうちに感じてしまう。
- ・ 高学年になるほど、男性の教師が増える。
- ・ 写真の撮り方やポーズも男子と女子で違う。

<そういう場面に出くわしたときにどのように感じましたか？>

- ・ 流されたままだった。
- ・ 世代が違うのもありますが、自分たちで変えていこうっていう感覚もあります。DV されているまではいかないが、受け手側の意見で正せるのも限界があるなと感じる。
- ・ 電車の中で性暴力を受けても、それはあなたの服装が悪いからと言われる。ある人は性暴力を受けたことを女性として認められたことだから褒められた話もあり、考えられないと思う。
- ・ した側の問題ではなくされた側の問題になっている。
- ・ 意外と街の中でもそういう場面を見たり、聞いたりすることはあるかもしれない。
- ・ 最近はこのことが議論されるようになった。中学生くらいのときは自分自身も分かってなかったけど、時代の流れとともに意識するようになってきた。
- ・ 最近議論されているよね。ジェンダー学みたいなものも昔は無かった？
- ・ 昔は分からないが、私は先生になるために教育を受けていたので（ジェンダー学の授業を受けて）、学校内でこれだけ男女分けがある現実と、意識しないといけないことを学んだ。
- ・ 婚活の場、合コン、マッチングアプリ、結婚相談所でも男女で料金設定が違って個人的には違和感がある。そこは平等でもいいのでは。

＜どちらにどのようなバイアスがかかっているのでしょうか？＞

- ・ 婚活サービスにおいて、基本的には女性の支払う額が安くなっている。男性が多めに払う。なんでそのような背景になっているのかはわからない。
- ・ 業界の慣習なのか。
- ・ 平等にできたほうが完全に対等な関係を作れると思います。
- ・ 婚活などのサービスで女性の負担額が安いという話から派生して、家事育児などの無賃労働を長時間担うのは（男性ではなくて）女性で良いという感覚があるように思う。
- ・ 入院した時の話ですが、お母さんに連絡してくださいって結構何回も言われて、なんでお母さんしか指名しないのかと思った。母親と繋がっているのか、呼べば母親がすぐ来るだろうという思い込みをしているのか。入院のとき、病院側から立ち合い人として親族の方に連絡してくださいって言われた時の話。

● 6次計画の素案について、どんなところがいいと思いますか、また、どんなところをもっとよくすることができると思いますか？

＜内閣府の資料の第 11 分野の教育・メディア等を通じた男女双方の意識改革、理解の促進について、まず基本認識の部分で表現に関して意見はありますか？＞

- ・ 一番最初の部分は、「女性も男性も」のところは順番が意識されている表現ですね。一番最後から 5 行目の「人権に配慮するものと思いながら」の部分が少し違和感あり、「人権を基盤とし」の表現の方がいいと思います。
- ・ 上から 3 つ目の「女性も男性も一人一人が、お互いを尊重しながら、長い人生の中で主体的で多様な選択をでき、自分らしく生きられる」っていうところも明文化していくのは、学校での男女の将来感にも繋がると思うのでしっかり文字で訴求していくことは大事だと思う。
- ・ 上から 3 つ目の 1 行目で「幼少の頃から長年にわたり」と書いてあり、幼少期からアンコンシャス・バイアスに気をつけて育てること。絵本の読み聞かせの頃から始めてもいいのでは。中学校や高校ではなく、ある程度ものわかりがつく前の 幼少期からアンコンシャス・バイアスに気をつけて接するとよりよいと思う。

＜施策の基本的方向についても、気になった表現や改善点を教えてもらえますか？＞

- ・ 教員を目指していた時期に、大学の教員免許科目ごとに男女比が偏っていると感じた。男性も女性も教師はいるが、理系・文系など科目によって偏りがあるので、そこも文章に反映されると良いと思う。
- ・ 「表現の自由を十分尊重しながら、性暴力表現など実在する女性の人権を侵害するような情報への対策を」（2（1）4 項目の 3 行目）というところで、カード会社のブランドがアニメや性的表現によるゲームの販売元からのクレジットカード決済をさせないなどの例もあるので規制する面も大事。一方で、文化を過度に収縮させないように十分検証した上で運用されていくべきだと思う。

- ・ 基本的方向の一番上の 2 行目について、教員の養成・採用・育成の課程の話で、特に養成に関して教員免許を取る過程で大学に行く方が多い。でも、教員になる免許を得る段階で、アンコンシャス・バイアスが自分たちにあるかもしれないので、それに基づいた教育をしないように、教育の段階で防止することが大事だと思う。先生方の無意識の偏見をこどもにそのまま伝えないように、大学の段階から教育するのが重要だと思う。学校は性差別や性役割分担の再生産が起こりやすいので、それを防ぐ意味でも大事だと思う。特に学校は校長先生の権限が大きいので、校長に働きかけることは他の教員への影響にもつながるし、構造的に有効だと思う。
- ・ 基本方向の一番上の部分で男性にも女性にもアンコンシャス・バイアスがあるって宣言しているところについて。差別について学ぶのには段階があって最初は無関心、次に抵抗、次に受容・アサーティブの時期がある。なので、まず無関心の段階から気づきがあることで学習の段階が進む。無関心から次段階に移るための「気づき」が明言されているのが大事だと思う。
- ・ 下から 4 行目の「性暴力表現など」の部分は具体的に何を指すのかよく分からない。こういう境界が曖昧な部分は明確に打ち出してくれるといいと思う。
- ・ 学校内で外部講師を呼んで何かしら人権に関する講義を行うにしても校長先生の許可が下りないと実行できないので、学校によって実行率の差が生じている。
- ・ 性暴力について文章では「女性」に限定されているが、女性に制限する必要があるのだろうか。今は男性の性被害も問題になっているので、実態を掴むのは難しいがここは男性も含めて考えるべきかもしれない。ある意味アンコンシャス・バイアスなのでは。
- ・ 建前として男女平等としても、大学の就活セミナーなどでは男女別で行われることがある。女性向けのセミナーでは面接の時は控えめに話しましょうとかアドバイスが違って、男女で情報が異なっている。大学教育での男女平等教育ってアクセルとブレーキを両方踏んでいるように感じる。

<担当課の方に直接伝えてみたいことはないですか？>

- ・ 校則の中で男女別に分かれているものをなくしてほしい。委員長と副委員長が男女で必ず割り当てるとか、そういう決まりもまだ残ってたりします。外からは分かりにくい分、そんな校則は意外と多い。

<この基本計画の文章を読んでみてどう感じましたか？こういう計画は社会の役に立つと思うのか率直にどう思っているか知りたいです。（担当課）>

- ・ 国が出している文章は国の活動の背景の証明に近いように感じる。
- ・ 国がこういう文章を出しているということ自体はプラスに受け止めていますが、どう具体的に取り組みに落とししていくのが大事だと思います。形だけ作って終わりにしてほしくない。
- ・ 今回こういう会があったから読みましたけど、同年代にリンクを渡しても、「なんだこれ」「なんか文字が多いな」とか、「どこから読めばいいんだろう」ってなると思います。解説があれば読めるかもしれないけど、たぶん読まない人も多いだろうなと思います。

＜なんでこのテーマにしたのか（担当課）＞

- ・ 構造的制度的な性差について学び、それが引き起こす問題について解決を試みていた立場なので、今回は参加した。
- ・ もともと性差ってあまり気にしたことがなかったんです。でも最近マッチングアプリとかを使うようになって、どうしても意識を持たされることがあって、それをきっかけに一度ちゃんと考えてみようと思った。
- ・ こども家庭庁に私の大学の教授が関わっていたこともあって、活動に参加していたところ、たまたま応募して通ったという経緯です。興味がまったくなかったわけではなくて、同年代でも少し年齢が違うだけで考え方の違いが見えたり、学校によって進路指導のやり方に差があったりするのを感じて、これは結構興味深い回だと思いました。

● 女性と男性が共に活躍でき、暮らしやすい社会を実現するために、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか？

＜社会全体の男女共同参画の課題や、それを解決するために大事だと思うこと、性別による差別をなくすために必要だと思うことは何かありますか？＞

- ・ アンコンシャス・バイアスに気づくことが大事だと思う。これまで当たり前だと思って生活してきた中で、バイアスがあったかもしれないと気づかせるアクションが必要だと思う。
- ・ 普及とか啓発とか。無意識のうちにジェンダーバイアスにつながっている部分をどう発信するかが難しい。テレビで流すのか、SNS で発信するのか。メディアやコンテンツだけで完結する話でもない気がします。
- ・ どのような性の方でも学校で安心安全に過ごしていけるような環境作りが大切。学校の中での男女分けも大きな課題で、例えば制服って私は女性です私は男性ですって明確に性別のラベルを背中につけられているような感覚になってしまう。違和感を覚える人もいるので、制服をブラウスのみにした学校や、「男子用・女子用」じゃなくて1型・2型・3型みたいに選べる形をすでに導入している学校もあるらしい。学校生活の中ですでに男女に分けられているものを全てなくしていく必要があると思う。
※更衣室やお手洗いなど男女わけの必要な場合は、性別を問わないスペースの設置が必要
- ・ メディアのコンテンツを監視機関みたいなものもあり、CMなどで男女の役割分担を強調しすぎる表現があれば指摘して変えさせる仕組みもあると聞いた。
- ・ 婚活も男女の役割意識が顕著に残っています。動画配信サイトなんかでも女性はこう振る舞うべき、男性はこうするべきみたいな情報がたくさん出ていて、見ていると当たり前になってしまう。そこで性差を一番感じる。男性向けと女性向けでサイトが分かれていることも多く、それを見ていると納得してしまう。
- ・ 恋愛の場では男性は女性らしさを求めるが、婚活の場では女性は経済力を求める、男性は家事や育児をサポートしてほしいといった役割分担が求められているように感じる。結婚になると急に求められる条件が変わるのは不思議だなと感じます。
- ・ 基本認識と婚活市場で言われていることの乖離が大きい。婚活でアンコンシャス・バイアスが作り上げられてしまっているように思います。

- ・ 正規の教育では男女平等が浸透してきているのに、就活や婚活のセミナーになるとまだまだと感じる。
- ・ やっぱりライフステージごとに改善の工夫が必要だと思います。
- ・ アンコンシャス・バイアスってすごく普通に存在するものだから、解決方法も意外と普通のやり方で、できないのかと思う。
- ・ だからこそ小さい頃からこれが当たり前だと思い込まないような環境づくりが本当に大事なのだと思います。

<振り返りをお願いします>

- ・ 年代が違うことであ、そうだったよねとか、うちはちょっと違ったなみたいな違いもあって、それを比べながら話せて、最後にライフステージごとに影響があるというところに行きついたのも話せて良かったと思う。みんなで紙に書き出しながら現状や課題を話し合えたのもよかったと思います。小さい頃に親が買ってくれたおもちゃも今振り返るとバイアスがかかっていたんだなと思うし、これから考えていくべき課題だと感じました。
- ・ 自分でもこんなに気づきがあるのだと驚きました。最後にどうやったらなくせるかという話はすごく考えさせられました。この回が終わっても、自分の中でじっくり考えていきたいと思いました。
- ・ 課題がライフステージごとにあるなら、もっと幅広い世代で集まって話してみると面白いと思いました。今日は本当にいろんな気づきがあって楽しかったです。